



授業情報誌
Class・学び合う授業
第5号 2019

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第5号 2019

第5弾

新潟県中学校教育研究会
授業情報誌 Class・学び合う授業
第5号 2020年2月

ISSN 2189-8111

学び合う授業づくりの情報誌

主体的・対話的で深い学び
知識及び技能の質を高める考え方や視点がわかる。
教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。
授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

ISSN 2189-8111

授業情報誌

Class・学び合う授業の内容

「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを伝えることが本誌のねらいです。

- 今年度の研究会を実施する指定研究チームが提案する20の「手立て」を紹介します。
- 授業ナビで学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができます。

新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度に発足し、創設55年目を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で学び合う授業の具現化を目指し研究する「指定研究」を行っています。

授業情報誌

Class・学び合う授業 第5号

発行日 令和2年2月21日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-2
じょいあす新潟会館

TEL 025-290-2251 FAX 020-4664-3748
E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp
<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk>

印刷 有限会社 東京プリント社

表紙写真 創設55周年研究大会ワークショップの成果物
デザイン 関野 幹裕（県中教研事務局）
イラスト 山内 伸二（新潟市立総合教育センター）

ISSN 2189-8111

class

学び合う授業

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第5号 2019

学び合う授業づくりの情報誌

第5弾

主体的・対話的で深い学び

知識及び技能の質を高める考え方や視点がわかる。
教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。
授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

持続可能な社会の担い手を 育むために

県中教研では、「学び合う授業」の在り方を探ることを通して、授業改革・授業力向上の取組を推進してきました。この取組では、課題追求の過程において、生徒一人一人の気付きや考えを基に主体的な学びへ導くとともに、課題解決に向けて仲間と関わり合うことによって豊かな学びを実現させることを目指してきました。こうした継続的な取組によって、会員の授業力が向上し、生徒に確かな学びの実現がなされています。

さて、次期学習指導要領の全面実施が迫って参りました。目指しているのは、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、生徒に求められる「資質・能力」を育むことです。特に重要となることは、生徒の学びが内容(コンテンツ)の獲得に留まるのではなく、課題解決等に必要となる資質・能力(コンピテンシー)が育まれていくように授業の転換を図ることです。

当研究会の授業情報誌第4号に特別寄稿をくださった奈須正裕先生は、著書『「資質・能力」と学びのメカニズム』で、「内容と資質・能力はあれかこれかの対立図式ではなく、個別具体的な内容について学ぶことを通して、汎用的に機能する資質・能力を育成する関係にあります。(中略)そして、両者をつなぐ重要な役割を果たすのが、『教科等の本質的な意義』、いわゆる教科等の本質です。(中略)つまり、教科等の本質を仲立ちとして、領域固有な内容と汎用的な資質・能力を結び付け、両者の調和的で一体的な実現を目指すことが、今後の教育に求められると考えたわけです。」と述べておられます。このことは、これまで知識の体系にあった授業を、今後は、資質・能力の体系へと転換させていく必要性を示唆しています。

その際、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現が、重要になることは言うまでもありません。特に、「深い学び」については、教科等の本質との関連において、じっくり検証していく必要があります。まずは、授業者自身が教科等の本質を踏まえて、「深い学び」とは何かを明らかにして授業改善に臨むことが重要です。奈須正裕先



新潟県中学校教育研究会
副会長 高橋 恒彦

生は「深い学び」についても、「深い学びとは何か。浅くない学びだと考えればいい。(中略)自分との関係において意味の発生しない機械的な学習は、いかにも浅い学びであろう。つまり、学習の浅い・深いとは、学習者における意味の発生の有無なり、そのまさに深さの度合いであり、鍵を握るのは既有知識との関連付けの有無なり深さの程度なのである。(中略)もう一つの次元は、発見学習か受容学習かである。発見学習とは、対象との関わりの中から子ども自身が知識を発見・生成する学習であり、実験に根ざした理科の授業がその典型である。(中略)有意味学習とすることが優先事項であり、その先で、教科や指導内容、教材の特質などを勘案しながら、発見学習と受容学習を適切に選択し、また組み合わせることが、深い学びの実践展開における重要なポイントである。」と述べておられます。これまで教室では、「何でこんな勉強しなければならないの」という生徒の声を耳にすることがありましたが、「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られていくことによって、そうした生徒の声も収束していくものと思います。

当研究会は、今年度の運営の重点を、「『見方・考え方』に着目し、『学び合う授業』によって生徒に確かな資質・能力を育む研究活動を進める。」としました。その教科等において特徴的に現れる、その教科等ならではの「見方・考え方」を拠り所にした「学び合う授業」の在り方を探ることによって、教科等の本質に迫る学びが実現されるものと思います。そして、そうした「見方・考え方」を拠り所にした「学び合う授業」の実現によって、生徒一人一人に、持続可能な社会の担い手に求められる資質・能力が育まれていくものと期待しています。

結びに、会員の皆様の寄稿に感謝するとともに、本誌が会員の皆様の授業研究に活用されることを願っています。

目次

巻頭言 第5号発刊にあたって 持続可能な社会の担い手を育むために 2
新潟県中学校教育研究会 副会長 高橋 恒彦

《指定研究2年目・指定研究1年目》 6

① 創設55周年研究大会 8

② 各指定研究チームが提案する資質・能力育成の手立て

国語

「言葉による見方・考え方」を働かせた学び合う授業が、深い学びを生み出す！ … 12
県中教研 国語部 全県部長 田中 和人

言葉による「見方・考え方」を働かせることで、「自分の読み」を深めます！ …… 14
上越市中教研 国語部

受信→思考→発信→受信のスパイラルでプレゼン力磨き!! …………… 16
三条市中教研 国語部

生徒の「知りたい」「追究したい」という思いから得た考えを伝え合うことで、
主題に迫る読みへとつなげます！ …………… 18
新潟市中教研 国語部

比較・分析する学び合いで読みを深め、批評する力を育てる!! …………… 20
村上市・岩船郡中教研 国語部

数学

「資質・能力」を育むための「学び合い」を! …………… 22
県中教研 数学部 全県部長 宮 宏之

「分からない」など生徒の疑問やつまずき等を基にした授業づくり!! …………… 24
上越市中教研 数学部

「学びたい」「伝えたい」など生徒の「～たい」に着目した授業の構想 …………… 26
長岡市中教研 数学部

+ α の工夫で生徒の追究が加速する! …………… 28
新潟市中教研 数学部

生徒の見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る生徒の育成!! …………… 30
五泉市・東蒲原郡中教研 数学部

技術・家庭

生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成
～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～ …………… 32

県中教研 技術・家庭科部 全県部長 逸見 東子

見方・考え方を広げ、働かせる深い学びの実現を！ ……………	34
上越市中教研 技術・家庭科部	
教師の説明や師範はできるだけ少なく!! 生徒の体験・実践はできるだけ長く!! …	36
南魚沼郡市中教研 技術・家庭科部	
来たる未来に向けて、よりよい生活を作るための資質・能力を育てる!! ……………	38
新潟市中教研 技術・家庭科部	
“人とつながり自分とつながれば”さらに思考を深めることができるだろう……………	40
阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 技術・家庭科部	

道徳

思考ツールを活用し、考え、対話しながら、生き方を考える道徳の探求 ……………	42
県中教研 道徳部 全県部長 上村 茂	
多様な価値に気づき、自己を見つめるための思考ツール（えんたくん）の活用 …	44
柏崎市刈羽郡中教研 道徳部	
自分事として物事を捉え、根拠をもとに議論し、生き方を考える!! ……………	46
小千谷市中教研 道徳部	
自分、仲間、教材との“対話”を通して、自分の生き方についての考えを深める!! …	48
新潟市中教研 道徳部	
思考ツールを活用し、自分事として問題をとらえる授業に!! ……………	50
村上市・岩船郡中教研 道徳部	

特別活動

問題発見・解決の過程を通して、「根拠をもとにした意思決定」を目指す ……………	52
県中教研 特別活動部 全県部長 佐藤 裕之	
普段の会話量UPと話合いのルール(全員・均等・肯定)定着で問題解決力UP!! …	54
妙高市中教研 特別活動部	
「学級をチーム化するステップ」で段階的に“子どもをつなぐ”!! ……………	56
中越地区中教研 特別活動部	
異学年交流、学校の未来を考える話し合い活動で自主性を身につける!! ……………	58
新潟市中教研 学級経営部	
「クラスミーティング」の共通の形式で自治的能力アップ! ……………	60
新発田市中教研 特別活動部	

③ 指定研究1年目の進捗状況

社会 ……………	63
理科 ……………	64
英語 ……………	65
保健体育 ……………	66
進路指導 ……………	67

④ 授業ナビゲーション

県中教研 授業ナビゲーション ……………	69
----------------------	----

編集後記……………	76
-----------	----

新潟県中学校教育研究会 理事長 若月 弘久

1年目、2年目の計40郡市が指定を受け、40の研究チーム(研究推進委員会)が「教科・領域における学び合う授業の具現化」を目指し、研究を推進しています。

指定研究 2年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校	研究会日
国語	上越	上越	小林 由希子	上越市立春日中学校	上越市立中郷中学校	11月20日(水)
	中越	三条	塚越 卓実	三条市立栄中学校	三条市立第四中学校	11月21日(木)
	新潟	新潟	河原 久美子	新潟市立白新中学校	新潟市立黒埼中学校	10月31日(木)
	下越	村上・岩船	清野 絢	村上市立朝日中学校	村上市立村上第一中学校	11月 5日(火)
数学	上越	上越	佐藤 行夫	上越市立牧中学校	上越市立浦川原中学校	11月 6日(水)
	中越	長岡・三島	鳥島 綾子	長岡市立江陽中学校	長岡市立青葉台中学校	10月31日(木)
	新潟	新潟	田村 友教	新潟市立白新中学校	新潟市立鳥屋野中学校	10月31日(木)
	下越	五泉・東蒲	鈴木 隆士	阿賀町立阿賀津川中学校	阿賀町立三川中学校	11月 1日(金)
技術・家庭	上越	上越	水野 頌之助	上越市立城北中学校	上越市立直江津東中学校	11月 6日(水)
	中越	南魚沼・南魚	遠藤 順	南魚沼市立六日町中学校	南魚沼市立八海中学校	10月 4日(金)
	新潟	新潟	寺田 敬史	新潟市立山潟中学校	新潟市立新潟柳都中学校	10月31日(木)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	伊丹 良一	胎内市立黒川中学校	胎内市立中条中学校	11月 6日(水)
道徳	上越	柏崎・刈羽	山本 直恵	柏崎市立松浜中学校	柏崎市立南中学校	11月20日(水)
	中越	小千谷	渡辺 直人	小千谷市立千田中学校	小千谷市立片貝中学校	11月13日(水)
	新潟	新潟	嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校	新潟市立木戸中学校	11月15日(金)
	下越	村上・岩船	長谷川 堯哉	関川村立関川中学校	村上市立村上東中学校	11月12日(火)
特別活動	上越	妙高・糸魚川	桑原 大和	妙高市立新井中学校	妙高市立妙高原中学校	11月26日(火)
	中越	長岡・三島	若林 圭太	長岡市立秋葉中学校	長岡市立堤岡中学校	10月29日(火)
	新潟	新潟	佐藤 裕子	新潟市立石山中学校	新潟市立小須戸中学校	11月28日(木)
	下越	新発田	長谷川 直紀	新発田市立本丸中学校	新発田市立東中学校	11月22日(金)

指定研究 1年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校
社会	上越	糸魚川	佐藤 直己	糸魚川市立青海中学校	糸魚川市立糸魚川東中学校
	中越	十日町・中魚	藤瀬 悠太	十日町市立十日町中学校	津南町立津南中学校
	新潟	新潟	加藤 真澄	新潟市立坂井輪中学校	新潟市立木崎中学校
	下越	五泉・東蒲	夏井 徳治	五泉市立五泉北中学校	五泉市立村松桜中学校
理科	上越	上越	鬼木 哲人	上越市立城北中学校	上越市立直江津中学校
	中越	加茂・南蒲	白井 明日華	加茂市立若宮中学校	加茂市立加茂中学校
	新潟	新潟	間 英法	新潟市立藤見中学校	新潟市立新津第一中学校
	下越	村上・岩船	高橋 一哉	村上市立村上第一中学校	村上市立岩船中学校
保健体育	上越	柏崎・刈羽	柳 啓介	柏崎市立第五中学校	柏崎市立第三中学校
	中越	見附	相場 雅典	見附市立見附中学校	見附市立西中学校
	新潟	新潟	中山 智司	新潟市立新津第五中学校	新潟市立山の下中学校
	下越	村上・岩船	神田 純平	関川村立関川中学校	村上市立荒川中学校
英語	上越	柏崎・刈羽	内山 貴啓	刈羽村立刈羽中学校	柏崎市立瑞穂中学校
	中越	長岡・三島	相田 一樹	長岡市立東北中学校	長岡市立関原中学校
	新潟	新潟	小田 久美子	新潟市立宮浦中学校	新潟市立潟東中学校
	下越	五泉・東蒲	田中 健太	五泉市立川東中学校	五泉市立五泉中学校
進路指導	上越	上越	永井 哲	上越市立吉川中学校	上越市立大島中学校
	中越	長岡・三島	沼岡 恵里	長岡市立関原中学校	長岡市立大島中学校
	新潟	新潟	岩崎 正法	新潟市立坂井輪中学校	新潟市立東石山中学校
	下越	新発田	川村 美香	新発田市立豊浦中学校	新発田市立七葉中学校

1 新潟県中学校教育研究会 創設55周年研究大会

平成30年11月20日、新潟県中学校教育研究会の創設55周年研究大会が開催されました。平成25年から「学び合う授業の創造」をテーマとして取り組んできた授業改革の節目となる研究会でした。



新潟県中学校教育研究会 創設55周年研究大会

新潟市立白新中学校を会場に、県内三校からの生徒・教師も加わり公開授業を行いました。また、全体発表の他、参加者450人によるワークショップ、上智大学教授 奈須正裕様による講演も行われました。

複数校合同公開授業

片貝中学校、寄居中学校、聖籠中学校、白新中学校4校の教師と生徒が一堂に会して9つの公開授業を行いました。

■道徳（3年） より良い生き方を目指して ～君たちはどう生きるか～

授業者：渡部 佑真（小千谷市立片貝中学校・現：柏崎市立鏡が沖中学校）



■社会（3年） 若者の投票率向上策 ～主権者意識の醸成を目指して～

授業者：長谷川 淳（新潟市立寄居中学校）



■道徳（3年） 関わらないとは？関わるとは？ ～社会参画，公共の精神～

授業者：竹内 文比古（聖籠町立聖籠中学校）



■数学（1年） 資料の活用 ～提案するのはどっちの電池？～

授業者：藤田 夏樹・鳥居 竜一（新潟市立白新中学校）



■保健体育（1年） ダンス ～新潟総踊り白新ver.を創りあげよう～

授業者：堀 里也（新潟市立白新中学校）



■国語（2年） 魅力的な提案をしよう ～プレゼンテーション～

授業者：河原 久美子（新潟市立白新中学校）



■理科（2年） 電流と磁界 ～日常生活と電磁誘導～

授業者：坂井 友紀（新潟市立白新中学校）



■技術・家庭（3年） 計測・制御 ～「エコ」で「便利」な照明制御プログラム～

授業者：関野 幹裕（新潟市立白新中学校）



■英語（3年） This is Our NIIGATA! ～ドイツの中学生に新潟の魅力を紹介しよう～

授業者：田中 英昭（新潟市立白新中学校・現：新潟市立東新潟中学校）



全体発表

新潟県中学校教育研究会 理事長

若月 弘久

元下越地区美術副部長（現：新発田市立東中学校）

片桐 洋子

前上越地区幹事（現：糸魚川市立糸魚川東中学校）

山本 宏幸

長岡市立南中学校（現：附属長岡中学校）

佐藤 正秀



ワークショップ

コーディネーター

新潟青陵大学福祉心理学部 教授

（現：京都女子大学発達教育学部教育学科 教授）

岩崎 保之 様



講演

『主体的・対話的で深い学びの創造』

上智大学総合人間科学部教育学科 教授

奈須 正裕 様



生徒交流会

全体会の開催中、別室にて公開授業を行った4校の生徒の交流会を行いました。



▶ 当日の各種データを県中教研HPに掲載しています。

- ・ 公開授業指導案
- ・ 全体発表スライド
- ・ 講演スライド一覧
- ・ リーフレット
- ・ 全体発表ノート
- ・ 当日要項

等のデータを県中教研HPに掲載しています。

トップページ (<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk/>) から「55周年研究大会」にアクセスするとご覧いただけます。※一部コンテンツは校内PCからはセキュリティ設定により閲覧できない場合があります。

指定研究ローテーションの変更について

音楽、美術、保健体育、技術・家庭、学校保健、特別活動、進路指導、総合の8教科・領域では、2年間の指定研究期間の後、2年間の空白期間がありました。これにより、研究推進責任者の引継ぎが困難になったり、研究自体の継続性が低下したりする問題がありました。

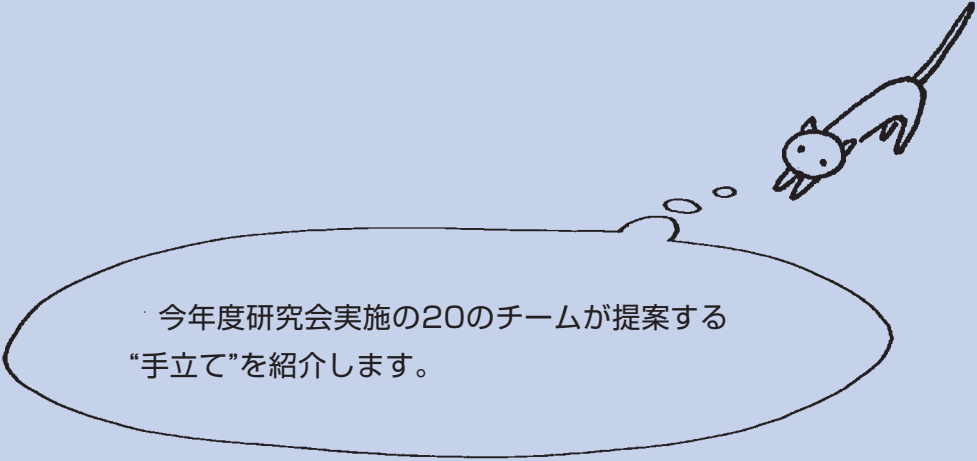
県中教研では数年前より検討を進めてまいりましたが、5月の評議員会にて令和2年度より下の表のように決定しました。2地区ずつ2年ずらして指定研究を行うことで、上記の問題の解決を図ります。

	部会	地区	R元 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027
A	国語		②	①	②	①	②	①	②	①	②
	社会		①	②	①	②	①	②	①	②	①
	数学		②	①	②	①	②	①	②	①	②
	理科		①	②	①	②	①	②	①	②	①
	英語		①	②	①	②	①	②	①	②	①
	道徳		②	①	②	①	②	①	②	①	②
B	音楽	上新					①	②			①
		中下			①	②			①	②	
	美術	上新				①	②			①	②
		中下		①	②			①	②		
	保健体育	上新	①	②	①	②			①	②	
		中下	①	②			①	②			①
	技術・家庭	上新	②	①	②			①	②		
		中下	②			①	②			①	②
	学校保健	上新					①	②			①
		中下			①	②			①	②	
	特別活動	上新	②	①	②			①	②		
		中下	②			①	②			①	②
	進路指導	上新	①	②	①	②			①	②	
		中下	①	②			①	②			①
	総合	上新				①	②			①	②
		中下		①	②			①	②		

上新：上越地区・新潟地区　中下：中越地区・下越地区

は従来のローテーション部分

② 各指定研究チームが提案する 資質・能力育成の手立て

A simple line drawing of a cat jumping towards a large, horizontal oval thought bubble. Three small circles lead from the cat to the bubble. Inside the bubble, there is Japanese text.

今年度研究会実施の20のチームが提案する
“手立て”を紹介します。

国語

「言葉による見方・考え方」を働かせた学び合う授業が、深い学びを生み出す！



県中教研 国語部 全県部長
上越市立潮陵中学校 田中 和人

国語科の学びを深める視点や考え方となるのが「言葉による見方・考え方」です。

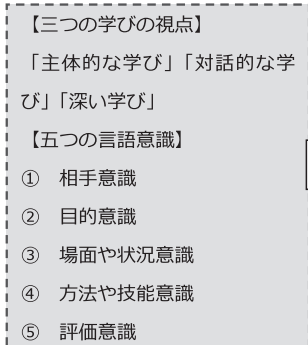
学習者自身が言葉に向き合い、他者と学び合うことで深い学びが生まれます。そして、この深い学びで得られた実感が、「実の場」（実生活や他の学習場面）で生かしていける言葉の力をはぐくみます。

そのために、次の2つのポイントを押さえた授業づくりを提案します。

ポイント1 三つの視点、五つの言語意識を明確にした単元構想から学び合う授業の展開へ

「言葉による見方・考え方」を働かせるとは、学習者が言葉に向き合い、言葉への自覚を高めることです。そこで、国語科で培った言葉の力を実生活の中でいかに生かすことができるかを見通し、どのような単元構成にするかを考えていきます。その際、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点、五つの言語意識を明確にして構想していくことが大切です。また、設定した言語活動か

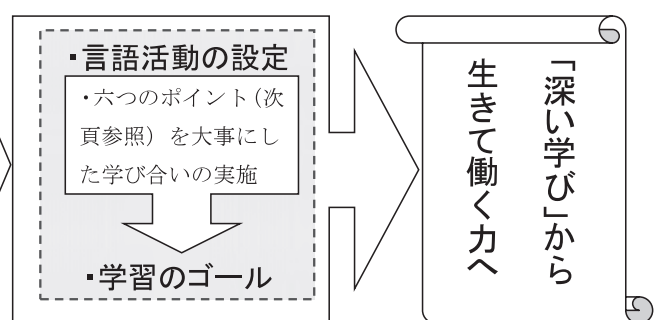
三つの視点、五つの言語意識を大事にした単元構想



ら学習のゴールに向かう過程の中で、言語意識を大切にしていけば、言語活動を工夫していくはずで、その工夫は魅力ある学習課題や問いをもとにした学び合いによって一層深い学びを生み出します。そして、実生活や他の学習で生きて働いていくのです。

学び合う授業の展開

実生活や他の学習

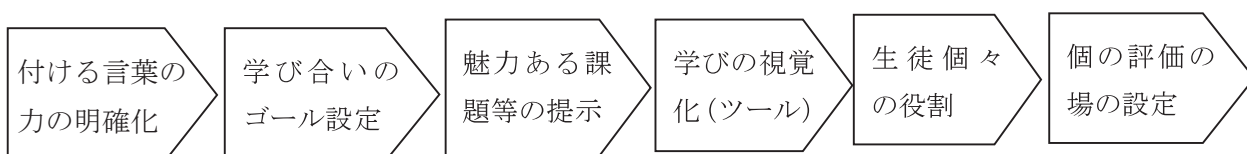


ポイント2 深い学びを生み出す学び合いの六つのポイント

学び合いには、「異質で多様な見方を交流できる」、「相違点を討論することで新しい見方を生み出せる」、「様々な見方を収斂していける」等の有効性があります。その有効性によって学習者が言葉と真剣に向き合い、言葉への自覚を高めることとなります。

しかし、ただグループで話合わせればよいというものではありません。質の高い学び合いを生み出すためには、次の六つのポイントが大事になります。①学び合いによって付け

たい言葉の力の明確化、②学び合いのゴールの設定、③魅力ある学習課題や問いの提示、④学びの視覚化(思考ツールの活用)、⑤学習者一人一人の役割、⑥個を評価する場の設定です。このような学び合う授業づくりを進めていくことによって、学習者個々の「言葉による見方・考え方」が鍛えられ、新たな課題に向かう深い学びが促進されるものと考えます。



<引用・参考文献> 『教育科学 国語教育 No.802, 809, 816, 818, 828』(明治図書)

国語 重点方針

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。

- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

国語 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

国語 〈上越地区〉

言葉による「見方・考え方」
を働かせることで、
「自分の読み」を
深めます！



上越市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 上越市立春日中学校 小林 由希子
会場校担当(右) 上越市立中郷中学校 小川 理歌

言葉と向き合いながら、自分の考えを整理し、他者との交流を通して考えを深めれば、「自分の読み」につながります。

手立て設定の理由

学習者が「この言葉を使うのは、どんな意味があるのかな？」と疑問をもたないと、学びは成立しません。

相手意識・目的意識がある課題を設定し、教材文と向き合い、よく読んでいけば、自分の考え（「自分の読み」）がつけられると考えます。

手立てのメリット

- ① 相手意識・目的意識がある課題であれば、「考え」を深めることができます。
- ② 思考ツールを活用することで、「考え」を整理できます。
- ③ 個の「読み」を交流することで、「自分の読み」に対して、新たな発見や気づきが生まれます。

手 立 て

「自分の読み」をつくるための指導過程

ステップ1

各自が学び合うことで考えることができる課題を提示する。

ステップ2

自分の考えを整理して「見える化」（視覚化）し、「自分の読み」をつくる。

ステップ3

他者と交流することで、共感したり、新たな考え方が生まれたりする。

どのような生徒の姿を目指すか？

- 「自分の読み」を作り上げるために、課題に対して言葉と向き合いながら、自分の考えをもつ生徒。
- 進んで他者と交流して自分の考えを深める生徒。
- 国語の授業で学んだことを、実生活で生かす生徒。

ステップ 1

課題提示のポイント

- 単元を通して考えることができるもの
- 「誰に」「何を」といった相手意識・目的意識をもったもの

生徒自身が

- ・自ら考えたいくなる。
- ・疑問を解決したいくなる。
- ・話し合いたくなる。

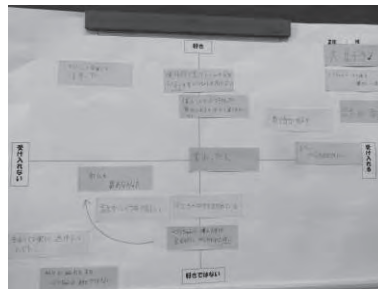


学習の最後に課題について考える時間をもち、課題意識を高める。

課題提示の工夫

生徒が相手や目的を意識できるように、単元を通しての課題を提示する。

ステップ 2



場面ごとに登場人物の心の動きをとらえる。



これを整理し、変化をとらえる。



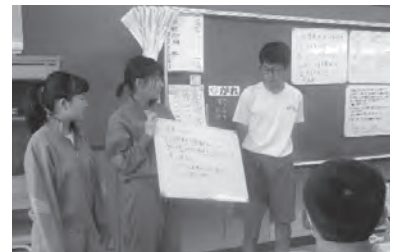
思考ツールの工夫

単元の中で、使える思考ツールを提示する。自分の考えを「見える化」（視覚化）することで考えが整理できる。

ステップ 3



自分の考えを班で交流し、考えを共有する中で、新たな気づき生まれる。



「自分の読み」の構築

個人が考えたものを他者と交流することで、共感したり、新しい発見をしたりすると、さらに考えが深まる。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、「自分の読み」を発信する

本研究では課題を工夫し、「思考ツール」を活用することで、「自分の読み」を明確にし、発信できるようにしようというものです。「自分の読み」や考えの根拠を教材の言葉や表現に求めることで、思考の深まりが促され、自ら読みの力を付けていくものと考えています。研究推進メンバーで検討を重ねてきた「思考ツール」を用いた学び合いの授業を公開します。

◇月 日：11月20日（水） ◇会場校：上越市立中郷中学校

◇公開：1学級 2年 平家物語「扇の的」 授業者 小川 理歌

◇指導者：上越教育大学教職大学院 教授 佐藤 多佳子

国語 〈中越地区〉

受信→思考→発信→
受信のスパイラルで
プレゼン力磨き !!



三条市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 三条市立栄中学校 塚越 卓実
会場校担当(右) 三条市立第四中学校 囲 由香

聞き手のニーズをリサーチし、聞き手を引き付けるプレゼンを追究します。聞き手にどのように伝わるかを確認し合い、再構築することで、プレゼンの質を高めていきます。

手立て設定の理由

教科書では「聞くこと」「話すこと」「話し合い」とそれぞれ分けて学習する形を取ることが多いです。それをあえて融合させ、聴き合い、話し合う必然性が生まれる学習活動にすることでプレゼン力を磨き、教科を超えて活用できるスキルになると考えました。

手立てのメリット

- ① 聞き手から情報収集することで、見当違いなプレゼンを避けることができます。
- ② 聞き手を意識したプレゼンを班で追究することで、話し合いが活発になります。
- ③ 聞き手への伝わり方を確認することで、プレゼンの振り返りができます。

手 立 て

同じテーマでプレゼンし合い、競わせる。

ステップ1

聞き手に取材したり、インターネットで情報を集めたりする。

ステップ2

プレゼンの作戦会議を行う。

ステップ3

プレゼンで聞き手の反応を確認し、他教科にも反映させる。

どのような生徒の姿を目指すか？

自分たちの提案と他の班の提案を比較する中で、「この提案のどこが決め手に欠けたのか」「どこをどのように修正すると聞き手を引き付けられるか」など、修正を必要とする理由を洗い出し突き詰めていくことで、「聞き手にとって分かりやすく魅力あるプレゼンテーションとはどのようなものか」を追究する姿を目指します。

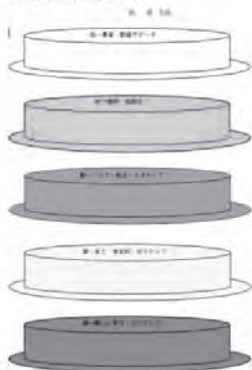
ステップ 1

野菜に関するアンケート

ほうれんそう	775	3322	8877	2211	1124	44
長ネギ	777	3333	8887	2211	1124	44
ブロッコリー	777	3333	8887	2211	1124	44



1つの帽子の視点で調査の視点を定めよう。



教室で野菜に関する事前アンケートを取ることで、野菜に対する周囲の感じ方の実態を把握します。「6つの帽子思考法」を用い、そのうちの5つの視点で担当する野菜について書籍やコンピュータで情報収集を行います。

ステップ 2



にんじん

緑黄色野菜 北海道と千葉県が2大産地
どこのスーパーに行っても売られている…

大嫌いな野菜 カレーに入れてほしくない！
固くて割みにくいのでいやだ…

青臭くて食べにくい 小さい子供に不人気
なかなか柔らかく煮えない…



個々で収集した情報をもとに班で5つの視点でとらえた野菜の特徴をどんどん書いていきます。互いの意見を統合したり、その場で思いついたりしたものもよし。書き終わったら、それぞれの視点をどの順で話すと効果的なプレゼンになるかを検討します。

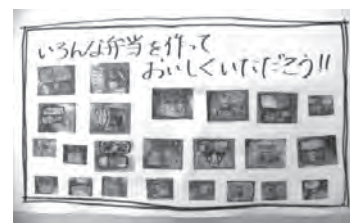
ステップ 3



プレゼン評価シート↓

ブロッコリー	ほうれん草	長ネギ
①	②	③
④	⑤	⑥
かぼちゃ	大根	れんこん
①	②	③

家庭科の学習とのコラボ



フリップなどの資料を効果的に使いながら、プレゼンテーションをします。聞き手はそれぞれの班のプレゼンテーションを聞きながら「なるほど」「いいね」と感じたものを評価シートにメモしていきます。相互評価により振り返りを行います。

指定研究会情報

新潟中越地区（三条市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：相手の話を聴き、自分の考えを深め表現できる生徒の育成
～受信・思考・発信を大切にしたい聴き合い学び合い活動を通して～

聞き手に行動を起こしてもらうことを目的として、提案型のプレゼンテーションを練り上げます。「6つの帽子思考法」を用いて、班員が1つ1つの側面に集中して考え、提案素材を追究するとともに、説得力のある魅力的なプレゼンへと高めます。

◇月 日：11月21日（木） ◇会場校：三条市立第四中学校

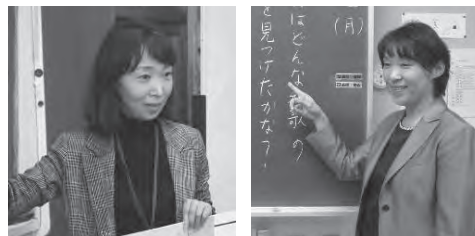
◇公 開：1学級 2年 「説得力のある提案をしよう～プレゼンテーション～」

授業者 囲 由香

◇指導者：新潟大学教職大学院 教授 吉澤 克彦

国語〈新潟地区〉

生徒の「知りたい」「追究したい」 という思いから得た考えを 伝え合うことで、主題 に迫る読みへと つなげます！



新潟市中教研 国語部
研究推進責任者(左) 新潟市立白新中学校 河原 久美子
会場校担当(右) 新潟市立黒崎中学校 西方 和美

課題意識をもって取り組める学習課題を設定し、生徒に「知りたい」「追究したい」という思いをもたせることで、主題に迫る活動へと向かわせます。

手立て設定の理由

情意性の高い学習課題を設け、生徒に読み深めることにつながる問いをもたせる。この問いを仲間と共有しながら追究させることで、能動的に読んでいく力を育むことができると考えた。

手立てのメリット

- ① 教材と自分の生活や興味・関心とのつながりが意識でき、学習への見通しがもてる。
- ② 自分の考えや疑問などをフレームに当てはめることで、思考の整理をすることができる。
- ③ 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、考えを深められる。

手 立 て

生徒が各自の生活や既習内容と照らし合わせ、感動したり疑問をもったりすることができる学習課題を設け、各自が考えを伝え合う活動へつなげる。

ステップ1

生徒の意欲を高める導入と課題設定の工夫

ステップ2

思考の整理・検討を促すフレームの提示

ステップ3

考えを伝え合うためのフレームの提示

どのような生徒の姿を目指すか？

教材の中の言葉や文章と向き合い、そこから生まれた問いを基にして、自分なりに考え、自信を持って表現する姿を目指します。フレームを用いて思考を整理することで仲間に伝えたい内容を明確にし、活発に伝え合う活動に没頭することの楽しさや、他の意見から新たな気付きを得ることができる面白さを味わわせたいです。

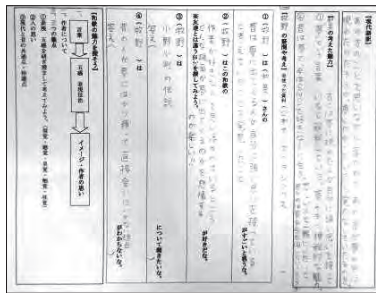
ステップ 1



導入と課題設定の工夫

導入でこれから学ぶ教材と自分の生活などを照らし合わせ、作品を身近なものとして捉えた上で学習に入り、学習課題へとつなげます。

ステップ 2



フレームによる思考の整理

自分の考えをまとめるための手立てとして、フレームを示します。順を追って自分の考えを書き出すことで、考えを整理し課題に迫ることができます。また、自分の考えの言語化にも役立ちます。

ステップ 3



考えの共有・収束

書き手の伝えたいことや自分の考えを明確にするために班で意見を交流させます。共有・収束のためのフレームと質問の仕方などを示し、意見交換をしやすくすることで、課題解決に迫れるように促します。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：生き生きとした活動を通して、言語能力を伸ばす指導
～能動的な読みを促す課題設定の工夫～

3年生では、自分の選んだ和歌のキャッチコピーや情景をグループのメンバーに紹介することと、紹介を聞いた友人たちから和歌への質問を受け付けることで、読み深めへつなげる活動を行います。2年生では「文章をわかりやすくしている工夫は何か」についてそれぞれが考えをもち、共有し合うことで文章の特徴をとらえ、文章の展開の仕方や筆者の工夫に迫ります。

◇月 日：10月31日（木）

◇会場校：新潟市立黒埼中学校

◇公 開：2学級 2年 「モアイは語る」

授業者 鈴木 智

3年 「君待つと一万葉・古今・新古今」

授業者 西方 和美

◇指導者：新潟大学教職大学院

教授 小久保 美子

新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 長谷川 聡実

新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 佐藤 貴子

国語 〈下越地区〉

比較・分析する学び合いで 読みを深め、批評する力 を育てる !!



村上市・岩船郡中教研 国語部

研究推進責任者(左) 村上市立朝日中学校

清野 絢

会場校担当(右) 村上市立村上第一中学校

畑山 倫和

観点を明確にした思考ツールを用いて比較・分析することで論理の展開の工夫や表現の効果に気付かせ、批評する力を育てます。

手立て設定の理由

一人一人に自分の考えをもたせることが主体的な学習のスタートです。そのために、思考ツールを用いて新聞記事の内容を整理させ、学習の焦点付けをします。さらに、交流し、比較・分析して得た情報をもとに自分の考えを見直すよう働き掛けることで、明確な根拠をもって批評する力を育てます。

手立てのメリット

- ① 思考ツールを用いることで、文章の内容やそれぞれの考えを可視化できます。
- ② 交流により、批評につながる情報を多く得ることができます。
- ③ 記述することで、自分の考えを明確にすることができます。

手 立 て

比較・分析で批評する力を高める。

ステップ1

観点を明確にした思考ツールに記事の内容を整理します。

ステップ2

自分が整理した思考ツールを用いて交流し、比較・分析します。

ステップ3

どちらがより説得力があると考えたか、根拠を挙げて記述します。

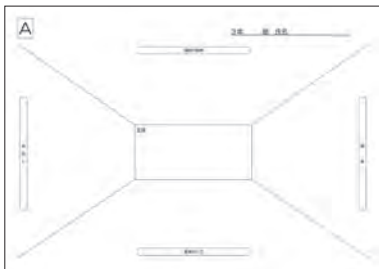
どのような生徒の姿を目指すか？

- 同じ話題について述べられた複数の新聞社の記事について、その特徴を仲間と交流しながら比較・分析し、明確な根拠をもって自分の言葉で批評しようとする姿を目指します。

ステップ 1

【コア・マトリクスの観点】

- ・見出し
- ・論理の展開
- ・表現のしかた
- ・図表



◎思考ツールの活用

思考ツールを活用し、記事の内容を整理します。思考ツールは、4つの観点を示し、それぞれの記事についてまとめます。

ステップ 2



◎思考ツールをもとにした交流

単元の中で2回交流をします。1回目は自分が気付かなかった情報を収集し、思考ツールを作り上げます。2回目は、意見交流をすることで、どちらの記事のどのような所に説得力があるか、自分の考えを深めます。

ステップ 3



◎批評する

「どちらが説得力のある記事だと考えたか」を自分の言葉で批評します。その際、「論理の展開」「表現の仕方」を吟味し、それを根拠として書きます。

指定研究会情報

下越地区（村上市・岩船郡中教研）国語教育研究発表会

- ◇研究主題：言語活動を通して生徒が主体的に学び合う国語科授業の在り方
～学び合うことで読みを深める授業実践を通して～

公開授業では、同じ話題の2つの新聞記事を取り扱います。交流の場を設けながら、思考ツールを活用してそれらの記事を比較・分析した上で、「どちらが説得力のある記事だと考えたか」を、根拠を挙げて記述します。

- ◇月 日：11月5日（火） ◇会場校：村上市立村上第一中学校
◇公 開：1学級 3年 「新聞記事を比較して読もう」 授業者 畑山 倫和
◇指導者：阿賀野市立安田小学校 校長 石黒 篤志

数学

「資質・能力」を育むための「学び合い」を！



県中教研 数学部 全県部長
長岡市立旭岡中学校 宮 宏之

「学び合い」は手段であって目的ではありません。あくまでも「資質・能力」を育むことが目的です。「学び合い」を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「資質・能力」を育む授業を目指しましょう。そこで、「分からなさ」「問い」をポイントとした授業づくりを紹介します。

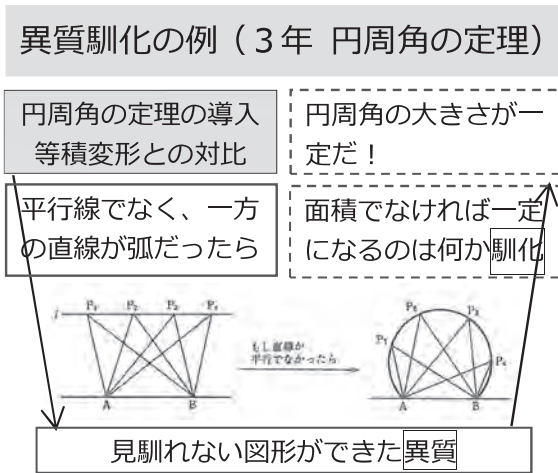
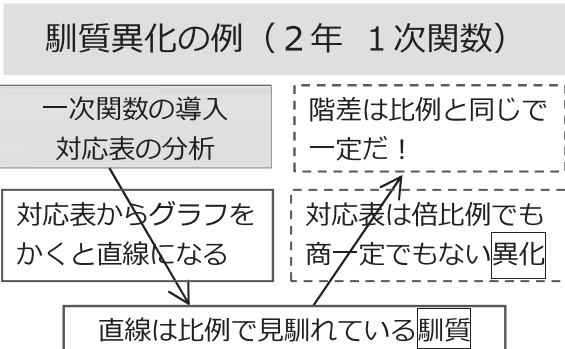
ポイント1 生徒の「分からなさ」を基盤にし、新たな「分からなさ」を生じさせる。

「CLASS第3号」で、課題設定の手法としてじゅんしついか いしつじゅんか 馴質異化・異質馴化を提案しました。

馴質異化とは「馴れていると思っていたのに、分からなさがあることを意識させる手法」であり、異質馴化とは「分からないと思っていたのに、馴れているものに関わっていることを意識させる手法」です。どちらも、「分からなさ」を基盤にしているものの、生徒に

は「思い当たる節」があることから、追究のエネルギーが生じます。

さらに、課題の解決により新たな「分からなさ」や新たな「問い」が生じたならば、正に主体的な学びとして継続していくことでしょう。



<引用・参考文献>

金子忠雄監修・酒井勝吉・長谷川浩司著(1989)「対話と探求を深める数学科授業の構築」教育出版

ポイント2 「答えが一つではない問題」や「正解のない問題」が、新たな「問い」を生む。

数学は、問題が解けて正解するとうれしいものです。先生方の多くは経験があるでしょうし、生徒にも、その感動を味わわせてたくて数学の先生になった方もいらっしゃることでしょう。

しかし、これからの時代は、それだけではすまないようです。それは、「正解のない問題に答えを見出す力」や「誰もが納得できる答え

をつくり上げる力」が求められているからです。

全国学力・学習状況調査や県Web診断問題でも「答えが一つではない問題」や「正解のない問題」が出題されています。正解かどうか分からずモヤモヤしたり、どうすれば正解のある問題になるか考えたりすることで、新たな「問い」が生じることでしょう。

＜答えが一つではない問題の例＞

平成24年度 全国学力・学習状況調査
中学校数学B③(2)

スキージャンプの原田雅彦選手と船木和喜選手のヒストグラムを比較して、そこから分かる特徴をもとに、次の1回でどちらの選手がより遠くへ飛びそうかを判断し、その理由を説明する問題。

どちらを選んでも、選んだ理由が適切であれば正解とされた。

＜正解のない問題の例＞

平成30年 新潟県 第7回 数学診断問題
1次方程式②③(2)

「妹は700m離れた駅に向かって歩き、兄は妹が出発してから9分後に自転車で追いかけた。妹は分速50m、兄は分速200mのとき、兄は何分後に追いつくか」をもとに、700mを900m、9分後を15分後に変えた問題。兄が追い付く前に妹は駅に着いてしまうことから、正解のない問題となる。

＜参考文献＞ 石川一郎著(2017)「2020年からの教師問題」ベスト新書

数学 重点方針

数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。

- 基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。
- 生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。
- 生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。

数学 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒同士が関わり合う場	発表会で終わらせず、生徒同士が関わり合う場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

数学〈上越地区〉

「分からない」など 生徒の疑問やつまずき等を 基にした授業づくり！！



上越市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 上越市立牧中学校

佐藤 行夫

会場校担当(右) 上越市立浦川原中学校

萱森 孝宏

生徒の「分からない」などの発言を取り上げることで、生徒は問題解決の糸口が見つかります。生徒の疑問やつまずきを基に、考え対話する場面を位置付けることで論理的に考察し表現する力を育てます。

手立て設定の理由

生徒の「分からない」などの発言を取り上げることで、生徒は問題解決の糸口が見つかります。生徒の疑問やつまずきを基に、考え対話する場面を位置付けることで論理的に考察し表現する力を育てます。

手立てのメリット

- ① 分からない点を明確にすることで、問題解決に向け、具体的にどうすればよいかという糸口が見つかります。
- ② 不完全な解答や誤答などつまずきを取り上げて考え対話することで、論理的に考察し表現する力が高まります。
- ③ 生徒の言葉でまとめることで、全員が納得することができ、理解が深まります。

手 立 て

生徒の疑問やつまずき等を意図的に取り上げます。

ステップ1

生徒の分からない点を明確にする。

ステップ2

不完全な解答や誤答などつまずきを取り上げて考え対話する。

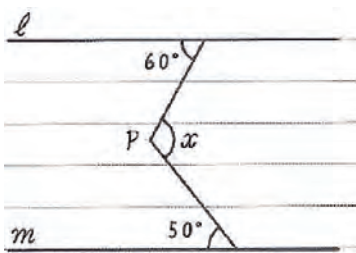
ステップ3

生徒の言葉でまとめる。

どのような生徒の姿を目指すか？

- ① 答えを求めるだけでなく、友達の疑問やつまずき等を共に考えられる生徒
- ② 友達のつまずきや誤答等を論理的に考察しようとする生徒
- ③ 友達の不完全な解答等を分かりやすく表現しようとする生徒

ステップ 1



えっ、どうやったらいいの？

前の問題との違いは
なんだろう？

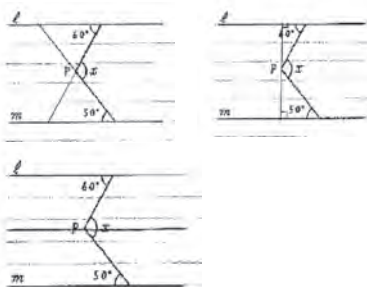
「平行線と同位角や錯角の関係」
が使えないぞ！

学んだことを使うには、
どうしたらいいかな？

補助線を加えれば、学んだこと
が使えるんじゃない？

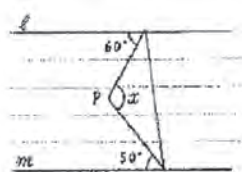
生徒が問題に直面したときに思う「分からない」の部分を取り上げることで、生徒のつまずきがはっきりし、解決の糸口が明確になります。

ステップ 2



生徒は自力で課題解決に取り組めます。生徒から多様な考えが出てきます。

この図では、解けなかったん
だけど・・・



本当にこの図形では角度を
求められないのかな？

生徒の考えの中から、不完全な解答や誤答などつまずきを取り上げ、対話によって解決していくことで、論理的に考察し表現する力を高めます。

ステップ 3

課題

「平行線と同位角や錯角の関係」が隠れている図形では、どうしたら角度を求めることができるか。



まとめ

キーワード等を使って
生徒の言葉で板書する。

教師は、1時間の学習の中で出てきたキーワード等を黒板に残すようにします。まとめでは、それらのキーワード等を使って、生徒の言葉で板書します。それにより、本時の学びの意義を整理することができます。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：論理的に考察し表現することができる生徒の育成
～生徒の疑問やつまずきなどを生かす授業づくり～

課題解決に向け、まずは自分自身の力で一生懸命取り組みます。その後、自然とグループを作り、仲間同士で分からないところや互いの考えを聞き合う生徒の姿をご覧ください。

◇月 日：11月6日（水） ◇会場校：上越市立浦川原中学校

◇公 開：1学級 2年 「図形の性質の調べ方」 授業者 萱森 孝宏

◇指導者：上越教育事務所 指導主事 中澤 和仁

数学〈中越地区〉

「学びたい」「伝えたい」など 生徒の「～たい」に着目した 授業の構想



長岡市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 長岡市立江陽中学校 鳥島 綾子
会場校担当(右) 長岡市立青葉台中学校 峠 佳奈子

生徒に「学びたい」という気持ちがあれば目的意識をもって問題解決に取り組めます。生徒に「伝えたい」という気持ちがあれば、意義のある学び合いが行われます。その過程の中で数学的な見方・考え方を働かすことができれば、深い学びにつながります。

手立て設定の理由

授業者の「～たい(鯛)」と生徒の「～たい(鯛)」が泳ぐ授業が深い学びを実現する授業と考えました。

生徒の「分かりたい」を実現するためには、授業者が「付けさせたい力」を明確にし、単元を構成することが必要です。

手立てのメリット

- ① 適切な課題は生徒の「～たい」を引き出します。
- ② 数学的知識・技能を使って表現することが可能になります。
- ③ 自己の考えが決定した上での意見交流・議論は内容が深まります。

手 立 て

生徒の「～たい」を引き出し、
支える学習過程の工夫

ステップ1

適切な課題設定をする

ステップ2

押さえるべき知識・技能を明確にする

ステップ3

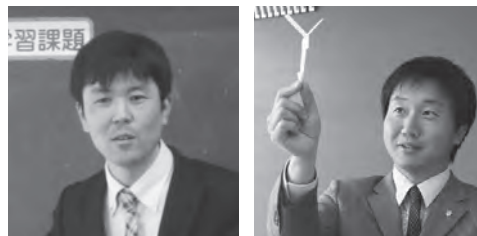
必要に応じた対話場面を設定する

どのような生徒の姿を目指すか？

- 既習事項をもとにして新しいことに挑戦する姿
- 自分の思考の過程を数学的に表現し、他者に伝えようとする姿
- 周りの生徒と関わりながら、お互いに高め合おうとする姿

数学〈新潟地区〉

+ α の工夫で 生徒の追究が 加速する！



新潟市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 新潟市立白新中学校 田村 友教

会場校担当(右) 新潟市立鳥屋野中学校 関谷 卓也

「課題設定」「グループ活動」「振り返り」を設定するだけになっていませんか？+ α の工夫を加えることで、生徒の追究が加速し、生徒の数学的に考える資質・能力が高まります。

手立て設定の理由

生徒に丸投げの授業では、自分の考えをもてない生徒がでたり、ねらいに沿った対話が生じなかったりすることがあります。そこで、3つの場面で生徒の学びを促進する手だてを打ちます。そうすることで、生徒の自立的・協働的な課題解決が実現します。

手立てのメリット

- ① 「できそうだ」「やってみたい」と生徒の意欲を喚起できる。
- ② 焦点が明確で確かな学びのある対話が実現する。
- ③ 振り返りにより、概念が形成されたり、体系化されたりする。

手 立 て

生徒の追究を促進する+ α の工夫をする。

ステップ1

「解決の見通し」を共有し、個人での追究を促進する。

ステップ2

対話をかみ合わせるための工夫をし、グループ追究の質を高める。

ステップ3

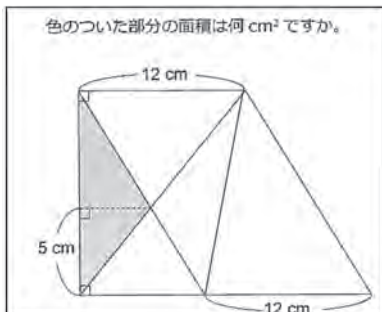
「キーワード」を用いた振り返りにより、学びの自覚を促す。

どのような生徒の姿を目指すか？

一時間の授業で目指すのは生徒の本物の追究です。本物の追究とその追究の省察を通して、生徒は知識・技能を必要感と意味理解を伴って習得します。また、統合的・発展的に考察する力が養われ、数学の楽しさを実感したり、粘り強く取り組んだりするようになります。つまり、数学的に考える資質・能力が高まっていきます。

ステップ 1

〈2年 等積変形(1時間目)〉
 ※ 本時の追究を通して、
 等積変形を見いだしてい
 きます。



直接求めることはできるかな？

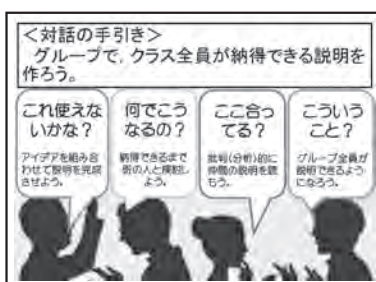
高さも底辺も分からない。

直接求められないならどんな
 方法があるだろうか？

面積の等しい三角形を見つけ
 ことができそうだ。

困難点や既習事項を整理
 することで「見通し」を生
 徒と共有します。そうす
 ると、「できそうだ」「やっ
 てみよう」と生徒の学びへの
 主体性が高まります。

ステップ 2



グループ追究では対話を
 かみ合わせるための工夫を
 します。例えば、「これ使え
 ない？」「何でこうなるの？」
 など生徒にしてほしい発話
 を〈対話の手引き〉として
 提示します。こうすること
 で、対話の目的が明確にな
 り、生徒の対話が促進され
 ます。そして、生徒は協働
 的に説明を作り上げていき
 ます。

ステップ 3



「今日の授業で難しかったこ
 とは」底辺や高さを求めよう
 としたけど、うまくいかなか
 ったことです。

「解決に結びついた考え方
 は」同じ面積の三角形を見つ
 けるというアイデアです。ま
 た、そこには平行線が出てき
 ました。

「これから」今日学習した平
 行線の性質をもっといろい
 ろな場面に使ってみたいです。

「キーワード」を用いた学
 習作文によって、生徒は困
 難点や解決のツボを整理し
 ます。そうすることで生徒
 は本時の学びを価値付ける
 ことができます。また、今
 後の学習へつなげることが
 できます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：数学的に考える資質・能力を育成する授業の工夫～全員共通実践を通して～

新潟市中教研では昨年度の秋に指導案を提案しました。そして、数学部全会員がその指導案をもとに各校で授業を実践してきました。授業を実践したからこそ見える生徒の姿、教師の工夫があります。協議会も各自の実践を元にした具体的な話し合いになります。

◇月 日：10月31日（木） ◇会場校：新潟市立鳥屋野中学校

◇公 開：3学級 1年 「作図」 授業者 長部 賢
 2年 「等積変形」 授業者 宮井 誠
 3年 「円の性質」 授業者 米本 香太郎

◇指導者：新潟大学教育学部 准教授 阿部 好貴
 新潟市教育委員会 指導主事 小泉 浩彰
 新潟市立総合教育センター 指導主事 小竹 智

数学〈下越地区〉

生徒の見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る生徒の育成!!



五泉市・東蒲原郡中教研 数学部

研究推進責任者(左) 阿賀町立阿賀津川中学校

鈴木 隆士

会場校担当(右) 阿賀町立三川中学校

佐藤 和幸

「日常生活の課題」と「生徒の固定観念」のズレがあることを気付かせ、それを数学化し解明していく過程を通して、課題解決する力を高めます。

手立て設定の理由

新学習指導要領に、算数・数学のイメージ図が提示された。イメージ図の通り授業をすることが、育てたい生徒の育成につながると考える。

手立てのメリット

- ① 日常生活にある事象を生徒が数学の課題として捉え、自分のなりの考えをもつには、十分な時間が必要である。
- ② 生徒が本来もっている生活に対する感覚とのズレがあるから、対話が生まれ、主体的課題と向き合う姿が生まれる。
- ③ 解決したことを振り返る、または、さらに日常生活に返すことで、学習した内容に対しての理解が深まる。

手 立 て

ステップ1

「課題理解→数学化→焦点化課題の解決」, 「焦点化課題解決→課題深化」のように2時間構成で授業を計画する。

ステップ2

「日常生活の課題と」と「生徒の固定観念のズレ」から対話を通して、事象を数学化する。

ステップ3

更なる課題の提示や振り返りを工夫することで深い学びを目指す。

どのような生徒の姿を目指すか?

- 日常生活にある課題を数学として捉え、自分なりの考えをもって課題を解決しようとする姿
- 関数の学習を通して、表・式・グラフを関連付けながら日常生活にある事象を自分なりの見方や考え方で分析する姿

ステップ 1

「課題理解→数学化→焦点化課題の解決」(前時)

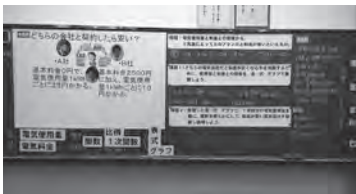


電気料金の仕組みを理解し、関数関係があることに気付く。



調べた料金形態を表・式・グラフにまとめる。

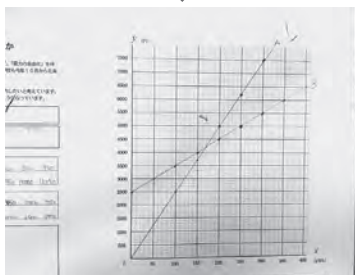
「焦点化課題→課題深化」(本時)



2時間学習したことを振り返る。

ステップ 2

「比例だと思っていたが…」



「比例じゃないよね、だって…」

課題理解し、事象の中にある数量に着目していくことで、自分の考えが既習事項である関数と気付く。しかし、様々な関数を学習したことから、どの関数かはっきりしていない。こういう姿から日常課題を数学化する必要性を感じさせる。

ステップ 3

「表・式・グラフを使ってみたら、電気料金は比例だけではない、1次関数もあるということがわかった。グラフの傾きや切片が違えば料金形態が大きく変わる。」

「表を利用して2社の料金を比較すると…」

「だから、〇〇会社の方がM中学校に適していると思う。」

深化課題

「1年間で考えたときにどちらの会社か三川中学校にとって安くなるか、検討しよう。」



既習の関数を手がかりに新たな提案を考える。

指定研究会情報

下越地区(五泉市・東蒲原郡中教研)数学教育研究発表会

◇研究主題：数学的な見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る生徒の育成

「自分たちの学校に合う電気料金はどれか」をテーマとした授業で、電気料金の仕組みを調べることを通して、学習した関数が活用できることに気付かせる。表・式・グラフを活用しながらテーマに迫ることを通して、課題解決する力を高める授業を予定しています。

◇月 日：11月1日(金) ◇会場校：阿賀町立三川中学校

◇公開：1学級 2年 「電力会社を選ぼう」 授業者 佐藤 和幸

◇指導者：弥彦村教育委員会 指導主事 渡部 智和

技術・家庭

生活を工夫し、 創造しようとする 生徒の育成

～実践的・体験的な活動 を通して学び合う授業～



県中教研 技術・家庭科部 全県部長
新潟市立光晴中学校 逸見 東子

見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指しています。そのために取り組んできたポイントを2つ紹介します。

ポイント1 既習事項と生活・技術とを関連付ける題材や課題の設定

生活の営みや技術の中には意識をしなければ、そのままやり過ごすことができるものも数多くあります。しかし、有限の資源を使い生活している私たちが、将来も、よりよい生活を実現させたいと考えたとき身に付けなくてはならない資質や能力があります。

生徒が自ら考え、『当たり前だと思っていたことがそうではないのかもしれない』『自分でもできるかもしれない』『やってみよう』と思い、学んだことを自らの生活に生かそうとする生徒を育てるには、どのような題材を用い、どのような課題を設定したらよいかを研修してきました。

① 当たり前 enjoymentしているものやサービス・技術などについて、新たな視点を与え「これでよいのだろうか」と疑問をもたせられる題材

- ② 自分の思いや考えを反映できる(創意・工夫が可能な)題材
- ③ 実物に触れたり、考えや技能を試したりすることができる題材
- ④ 自分の生活に生かすことができる汎用性のある知識や技術を身に付けられる題材

「技術・家庭」が“作って終わりの教科”ではなく、自分の生活をよりよくするために大事な教科であることを生徒が実感し、生活や技術に育成した見方・考え方を働かせていけるようにすることが大切です。

本部会では学習している内容が『自分にとって身近なもの、自分と関係がある』と感じられる題材や課題の設定を工夫し授業を行います。

ポイント2 新しい考えや価値観に触れるための他者やものとの対話の場を設定する。

これまでも話し合いの場は設けられていましたが、部会において次の課題が見えてきました。

- それぞれが自分の考えを発表する場に留まり、自分の考えを深化や強化させるには十分でなかった。

- 一人でじっくりと考えたい時間であるにもかかわらず、話し合いの場が設定され、生徒の思考が中断されることがあった。

以上のことから生徒にとって必然性のある話し合いの場が確保されるにはどうしたらよいかについて研修を進めてきました。

【話し合いの流れに関する取組の一例】

- ① 自分なりの目標，必要条件を設定させ，得たい情報や考えを明らかにさせる。
- ② 自分の経験だけによらず，実験によるデータや各種資料等を比較させたり，対比させたりする場面を設定する。
- ③ ②を基にした意思決定の場を設定する。（自分にとっての納得解，最適解を導く。）
後で，自らの思考の変化が分かるようにする。
- ④ 決定に用いた見方・考え方を確認する。
- ⑤ 自分の生活や技術に生かす具体を想起させる。

★思考の変容を可視化させる。

技術・家庭 重点方針

実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。

- 生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。
- 学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し会ったりする活動場面を設定する。

技術・家庭 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項，他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし，その実現に有効な“学び合い”の場を位置付けて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために，身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて，個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	関わり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために，教え合い，共同作業，話し合い，発表の場などを取り入れている。
⑥	関わり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし，話し合い，発表など，それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために，実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり，伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに，よりよい生活や社会の実現について，自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり，次の学習につなげたりするために，観点を明確にした評価の場を設定している。

技術・家庭〈上越地区〉

見方・考え方を広げ、働かせる 深い学びの実現を！



上越市中教研 技術・家庭科部 (左から)
 研究推進責任者(技術分野) 上越市立城北中学校 水野 頌之助
 副研究推進責任者(家庭分野) 妙高市立新井中学校 萩谷 公子
 会場校担当(技術分野) 上越市立直江津東中学校 石井 太郎
 会場校担当(家庭分野) 上越市立直江津東中学校 百目鬼 香保里

持続可能な社会の実現に向けて、生徒一人一人が、『技術・家庭科の見方・考え方』を広げ、働かせることで最適解や納得解を導き出します。

手立て設定の理由

これまで、学び合う授業を展開していく中で、生徒は「丈夫そうだから」や「価格が安いから」など一面的な見方や感覚的な見方をしたり、意見を練り上げることができなかつたりする姿が見られました。そこで、右の手立てを講じ、課題を解決するとともに3つのメリットを生み出します。

手立てのメリット

- ① 実生活に関する事象を課題とすることで、生徒の興味関心が高まります。
- ② 立場や根拠を明確にして意見を述べられるようになります。
- ③ 技術・家庭科ならではの見方・考え方を広げ、働かせることができるようになります。

手 立 て

『技術・家庭科の見方・考え方』
を広げ、働かせる学習過程の工夫

ステップ1

身近な環境問題など実生活に関する事象を課題に設定。

ステップ2

立場や科学的根拠など様々な視点に気付き、学び合う場の設定。

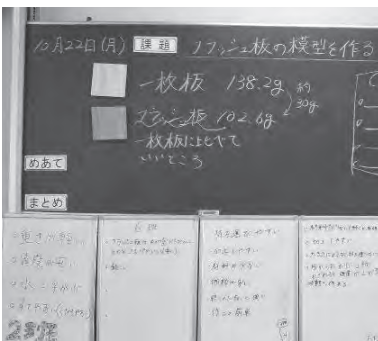
ステップ3

相反する要求の折り合いを付けて、最適解や納得解を導き出す場の設定。

どのような生徒の姿を目指すか？

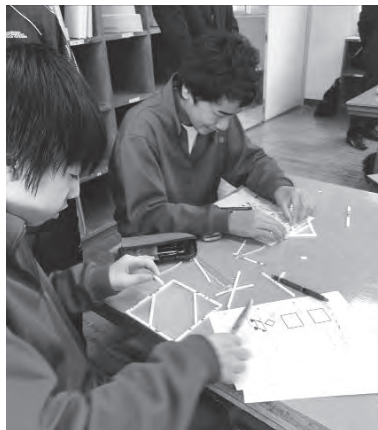
生徒一人一人が持続可能な社会の担い手として、消費・生産活動を利便性だけでなく、環境面を含め、多面的に自分や家族の生活を見つめ直します。また全世界で行われている活動について見聞きすることで、持続可能な社会を支える一員として、現在及び将来の生活や社会を具体的に考え、実践できる生徒を目指します。

ステップ 1



プラスチック海洋汚染のような身近な環境問題や省資源かつ環境負荷や経済性に着目し開発された材料など実生活に関する事象を課題に設定します。切実感のある題材ゆえに、追究意欲を高めます。

ステップ 2



ステップ1で高めた追究意欲を基に、既習事項や新たに得られた知識・技能を活用し、『技術・家庭科の見方・考え方』を広げます。

新学習指導要領では、技術分野は「技術の見方・考え方」が、家庭分野は「生活の営みに係る見方・考え方」が示されました。本研究では、それぞれの見方・考え方を総称して、『技術・家庭科の見方・考え方』としました。

ステップ 3



ステップ2で広げた『技術・家庭科の見方・考え方』を働かせることで、相反する要求の折り合いを付けて、最適解や納得解を導き出します。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）技術・家庭教育研究発表会

◇研究主題：持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する生徒の育成

生徒一人一人が、現在及び将来、持続可能な社会を支える一員として、場面や状況に応じて、自ら目的を設定したり、目的に応じて必要な情報を見出したりと『技術・家庭科の見方・考え方』を広げ、働かせながら、最適解を見出すことができる課題を設定しました。当日は、生徒が『技術・家庭科の見方・考え方』を広げ、働かせながら活動に取り組む様子をご覧いただきました。

◇月 日：11月6日（水） ◇会場校：上越市立直江津東中学校

◇公 開：2学級 2年 「A材料と加工に関する技術」 授業者 石井 太郎
1年 「C消費生活・環境」 授業者 百目鬼 香保里

◇指導者：上越教育大学 准教授 東原 貴志
准教授 佐藤 ゆかり

技術・家庭〈中越地区〉

教師の説明や師範は
できるだけ少なく !!
生徒の体験・実践は
できるだけ長く !!



南魚沼郡市中教研 技術・家庭科部

研究推進責任者(左) 南魚沼市立六日町中学校

遠藤 順

会場校担当(右) 南魚沼市立八海中学校

萩井 憲二

〈A 材料と加工の技術〉に関する学習で説明的になっていませんか？
生徒の主体的・実践的学習はこんな工夫からスタートします。

手立て設定の理由

生徒が課題を通して学習する多くの事は主体的な実践により身につく事が多いです。

教師による工夫された課題の提示により実践的な学びが始まり、継続した学びとなります。

手立てのメリット

- ① 初めて使う工具でも、ユニークなチャレンジなどから見方・考え方に気付きます。
- ② 丈夫な構造についての理解が深まります。
- ③ 生徒の主体的・対話的で深い学びにつながります。

手 立 て

教師の説明や師範はできるだけ少なくして、生徒が体験から気付き実践で活用できるようにします。

ステップ1 (材料加工の場面では)

体験から加工や組立て作業の見方・考え方に気付かせます。

ステップ2 (組立の場面では)

気付いた見方・考え方を活用する実践課題を与えます。

ステップ3 (まとめの場面では)

学習の過程を振り返り、学びを言語化します。

どのような生徒の姿を目指すか？

「生徒自身が主体となりやってみる」という生活スタイルを目指す生徒像と捉えた。そしてその生活スタイルにより獲得される「より多くの経験や知識や技術的な見方・考え方」をもちたくましく生きる生徒を目指します。

ステップ 1

<材料加工の場面では>

のこぎりを使った切断では、角度を小さくして力加減を丁寧にするると正確な切断ができることに気付かせます。

<組立て・組立て後>

接着剤を使い端金で締め付けることで、くぎ・ネジを使わなくても強度が上がることや、側板が垂直に交わることを優先するため少し大きめの底板を接着し、組立て後に加工して仕上げる方法があることに気付かせます。



教師による師範や映像は頭の中では理解できても、やってみないと分からないことが多いのです。

ステップ 2

<材料加工>

厚さ1mmの木口切断の課題を与え、ステップ1で気付いた切断の角度や力加減について実際に活用されます。



<組立て後>

はみ出ている底板を、接着剤の乾燥後に仕上げます。

当て紙をしてのこ身を反らせて切ったり、かんなで削ったりを生徒自身が選択します。



箱作りにおいて側面の2枚が垂直に仕上がり互いに垂直に交わることが組立ての際の鍵となります。

ステップ 3

<まとめの場面では>

学習の過程を振り返り、苦労や反省をふまえて学びを言語化します。

製作で大事だと感じた16個のポイントについて、その作業を難しいと感じた仲間実践して見せたり、言葉で説明したりすることで、学習内容をより深化させ、生活に活かす力とします。



学習の過程を振り返って実践を評価したり改善案を提案したりすることで、新たな課題に主体的に取り組む態度を育みます。

指定研究会情報

中越地区（南魚沼郡市中教研）技術・家庭科教育研究発表会

◇研究主題：「生徒にとっての『身近な生活』に焦点をあて、技術の見方・考え方について学習できるような授業の展開」

<A材料と加工に関する学習>で生徒が課題を通して学習する多くの事は、主体的な実践により身につく事の方が多いです。当日は「手立て（ステップ3）」より、学習の過程を振り返り実践を評価したり改善案を提案したりする場面を公開します。

◇月 日：10月4日（金） ◇会場校：南魚沼市立八海中学校

◇公開：1学級 1年「箱づくり」授業者 荻井 憲二

◇指導者：県立教育センター 副参事 阿部 一晴

技術・家庭〈新潟地区〉

来たる未来に向けて、
よりよい生活を作る
ための資質・能力
を育てる！！



新潟市中教研 技術・家庭科部

研究推進責任者(左) 新潟市立山潟中学校

寺田 敬史

会場校担当(右) 新潟市立新潟柳都中学校

松川 知克

地域の課題の解決方法をファシリテーションの手法を用いて練り上げることで、情報技術を活用してよりよい社会を作ろうとする資質・能力が育ちます。

手立て設定の理由

受け身の生徒が多い近年、生活の中の問題にも積極的に改善しようとする生徒が少ない。

そんな中、社会が抱える問題を解決するために積極的に工夫、創造する力を発揮する生徒を育てたい。

手立てのメリット

- ① 自分の考えが明確になる。
- ② 話し合いの中で様々な考えに触れ、思考が広がる。
- ③ 主体的に社会に携わろうとする態度が育つ。

手 立 て

課題や解決策を話し合い、よりよい生活のための技術を考える。

ステップ1

総合的な学習の成果を基に、イメージマップを用いて地域の課題を考える。

ステップ2

見出した地域の課題に対して、情報技術の知識・技能を駆使し、解決策を見つける。

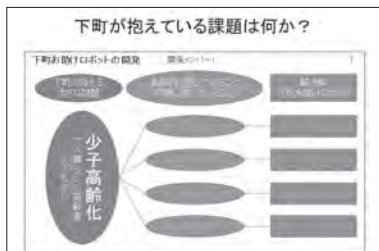
ステップ3

ファシリテーションを利用したグループ学習を通して得た様々な見方・考え方から解決策を考える。

どのような生徒の姿を目指すか？

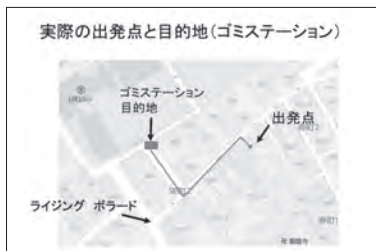
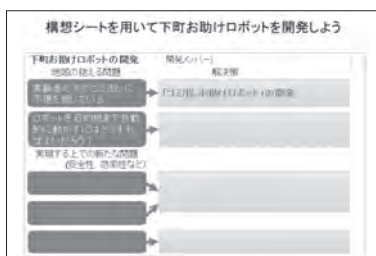
地域の身近な問題に目を向け、その解決に向けて学習した内容を使って試行錯誤をし、よりよい生活や持続可能な社会を構築しようとする資質・能力の育成を目指す。

ステップ 1



総合的な学習の時間で学んだことを基に、地域の抱える問題点を発見する。その問題点をイメージマップとしてまとめ、自分たちの住む地域の抱える課題を設定する。その解決策を技術・家庭科で学んだ知識を生かして見出していく。

ステップ 2

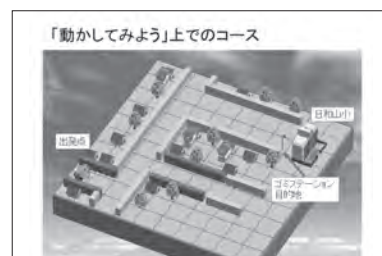


課題と解決策の中から、地域のゴミ出しに着眼し、「ゴミ出しお助けロボット」の開発を目指す。

グループでどのようなプログラミングが必要かを話し合い、情報の技術を活用し、解決策を講じていく。

プログラミングの基礎知識は、本時まで済ませておく。

ステップ 3



改善策を仲間とともに検討することで、実用的なプログラミングを構想する。各グループの構想を発表し、意見交換することでより良い構想にたどり着き、次時のプログラミングの実習、ロボットの操作につなげる。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）技術・家庭教育研究発表会

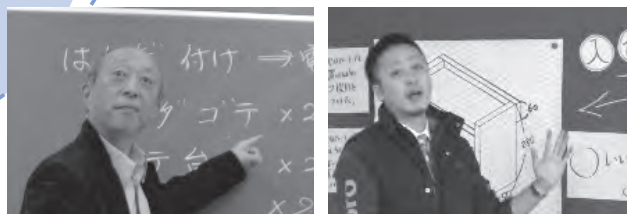
◇研究主題：「生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成」
～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～

技術・家庭科（技術分野）における「D情報の技術」の授業です。話し合いの中で、課題解決のためのプログラミングを構想する時間です。実生活に繋がる課題を考えることで、よりよい生活を作るための資質・能力を育てます。

- ◇月 日：10月31日（木）
- ◇会場校：新潟市立新潟柳都中学校
- ◇公開：1学級 3年「D情報の技術」授業者 松川 知克
- ◇指導者：新潟市立教育センター 指導主事 稲葉 康宣

技術・家庭〈下越地区〉

“人とつながり自分とつながれば”
さらに思考を深めることが
できるだろう



阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 技術・家庭科部

研究推進責任者(技術分野)(左) 胎内市立黒川中学校 伊丹 良一

会場校担当(技術分野)(右) 胎内市中条中学校 板垣 健志

最適化の視点に着目した本立ての構想を、他者に見てもらいアドバイスをもらい、自他の考えの折り合いをつけることで深い思考を行うことができるであろう。

手立て設定の理由

たとえば、本立てを作る場合、利用目的や生活環境に合わせて設計する。しかし、本当にそれが自分にとって最適なのだろうか。最適化の視点と優先度を決めたいうえで他者の意見を聞き、アドバイスをもらい、他者の意見と自分の考えの折り合いをつけることで人はより深く考えるのではないだろうか。

手立てのメリット

- ① 自分にとって最適な本立ての構想を行う段階で5つの視点と優先度を決定し要点を明確化します。
- ② お互いの構想の発表と相互評価でそれぞれの構想の良さや修正点に気づき、考えが広がります。
- ③ 他者の意見と自分の考えの折り合いをつける思考の中で、深く考える能力を育むことができます。

手 立 て

“最適化の視点とその優先度を決め、他者のアドバイスをもらうことで”再思考や、お互いが新しい発見を見だし、より深く考えるようになる。

ステップ1

本立ての構想で5つのポイントとその優先度をもとに、最適化の視点に立った構想を考えさせる。(視点の明確化)

ステップ2

自分の構想を発表しやすいように、インタビュー形式で発表します。その後、アドバイスをもらいます。(個と他の考えの広がり)

ステップ3

他者の意見と自分の考えの折り合いをつけ、最適化の視点を考慮した再思考の中で深い思考を促します。(思考の深まり)

どのような生徒の姿を目指すか？

本立てを設計するための構想を考えると、自分なりに思考を働かせ、よい作品になるよう努力すると思われる。しかし、それだけでは十分ではなく、よりよい最適化の視点に着目した本立てにするためには、他者の意見と自分の考えの折り合いをつけることで、汎用的な考え方や広い視野に立ってものづくりができるようになる。自分の考えと他者の意見とのすりあわせをグループ討議の中で活発に繰り返し広げていく姿に期待します。

ステップ 1

【前時】

本立ての構想で5つのポイントとその優先度をもとに、最適化の視点に立った構想を考えさせる。
(視点の明確化)

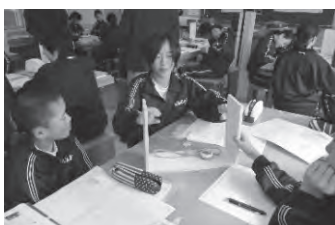
5つのポイント

- ・ 入るか(収納性)
- ・ 使いやすいか(操作性)
- ・ 丈夫か(耐久性)
- ・ 安全性(安全性)
- ・ 実現性(作れるか)

↓ 優先順位を決めて構想を考える。



本時では、最初に考えた構想図の教師が見て簡単なアドバイスを与えておきます。



ステップ 2

【本時】

自分の構想を発表しやすいように、インタビュー形式で発表します。その後、アドバイスをもらいます。
(個と他の考えの広がり)

ポイントを絞って発表
(アピールタイム)



↓ 質問はインタビュー形式
それぞれの優れた、改善策をアドバイスします。
(アドバイスタイム)
アドバイスは最適化の視点に着目し行う。

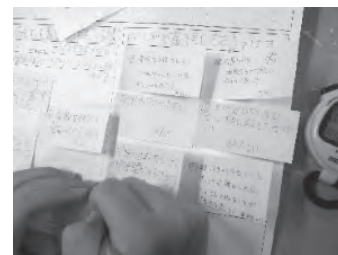
教師の工夫
後で思考の整理がしやすいように、付箋に色や印を付けて分類し易いようにしてあります。

ステップ 3

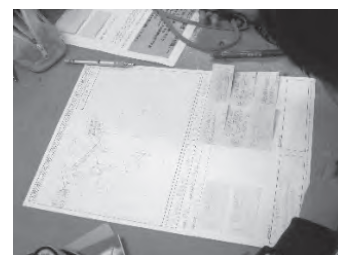
【本時】

他者の意見と自分の考えの折り合いをつけ、最適化の視点を考慮した再思考の中で深い思考を促します。(思考の深まり)

付箋の意見を参考に、再思考する。



↓ 自分は最適化の視点に着目し、他者と自分の考えの折り合いをつけて構想をまとめあげる。



最適化の視点に着目した本立ての構想ができあがる。

指定研究会情報

下越地区(阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研)
技術・家庭科教育研究発表会

◇研究主題: 学び合いを通して、考える生徒の育成

自分で考えた本立ての構想を他の人に見てもらい、改善点や優れた面をみんなで共有することで、それぞれの発想の改善が促され、思考も深まると考えられます。

◇月 日: 11月6日(水) ◇会場校: 胎内市立中条中学校

◇公 開: 1学級 1年 「A 材料と加工に関する技術」 授業者 板垣 健志

◇指導者: 聖籠町立聖籠中学校 教頭 藤原 明

道徳

思考ツールを活用し，考え， 対話しながら，生き方を 考える道徳の探求



県中教研 道徳部 全県部長
新潟市立葛塚中学校 上村 茂

より良く生きるための道徳性を養う「考え，議論する道徳」の授業を成立させるために，主体的・対話的で，かつ多面的・多角的に考える手立てや思考ツールの活用を紹介します。

ポイント1

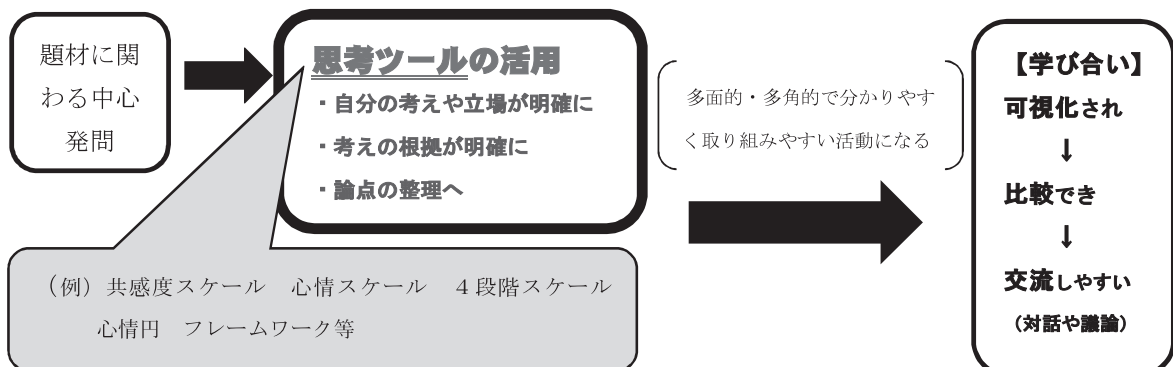
学習課題を自分事としてとらえたり，自他の考えを効果的に交流したりするために思考ツールを活用して，自分の考えや立場を明確にする手法

他者と本音で話し合い，多様な価値観に触れたり向き合ったりするなどの議論の出発点は，自分の考えや思いに対して根拠をもって明確に話すことです。そのためには，思考ツールにより可視化することが有効です。

心情スケールや心情円を導入場面で使用します。そして，それらの根拠を元にしてペアトーク等で学習課題を自分事としてとらえたり，他者の考えを理解したりします。

また，思考ツールは，授業の前後の考えの深まりを検証する場合にも有効です。

より効果的な思考ツールの活用を通じて，「他者の考えを自分の考えと比較する手法」により，議論を促進したり，考えの可視化から中心発問，さらに，納得解を得る授業を展開したりします。そして，多面的・多角的な価値の学びへつなげていくこともできます。



ポイント2 「対話」を通して多面的・多角的に考え、道徳的価値を自身に深化させて、道徳的実践力の向上につなげる手立て

「考え、議論する道徳」で見ると、結論が合意形成で終わり、議論の不成立が課題です。

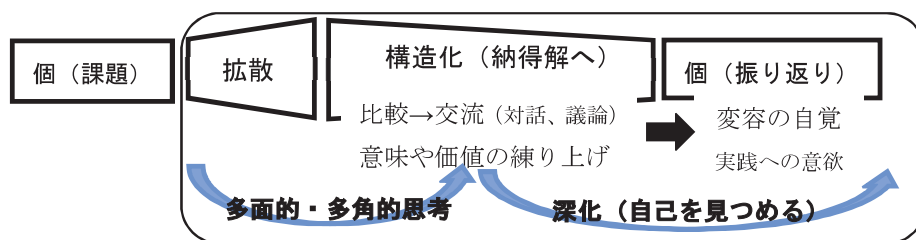
教師はteachでなくcoachの姿勢で教師主導収束型から脱却した授業力が求められます。

ファシリテーション形式により、教材、他者、自分との対話的な展開を通して、それら

への向き合い方に焦点を当て、多面的・多角的に考えさせていきます。

その過程で他者との相違点から自分の考えを確認、修正、補完し納得解へつなげます。

「振り返り」では、道徳的価値の深まりを自覚させ、道徳的実践への意欲を高めます。



道徳 重点方針

「考え、議論する道徳」の授業を展開し、道徳的価値の理解と実現のための資質・能力を育てる。

- 「主体的・対話的で深い学び」実現のための、質の高い多様な指導法を展開して、質的充実を図る。
- 思考ツール等の活用により、多面的・多角的に考えながら、最適解・納得解へ向かう展開を工夫する。

道徳 学び合い10

①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	生徒が自分自身の問題と捉え、向き合える「考え、議論する」ことを可能にする学習課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳」への転換のための指導方法の改善 (質の高い多様な指導方法)	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を伴って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で考えを拡散、構造化させ、思考ツールで考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値に向き合い、よりよい方向を探る場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

道徳〈上越地区〉

多様な価値に気付き、 自己を見つめるための思考ツール (えんたくん) の活用



柏崎市刈羽郡中教研 道徳部
研究推進責任者(左) 柏崎市立松浜中学校 山本 直恵
会場校担当(右) 柏崎市立南中学校 朝妻 幸月

「えんたくん[®]」に書きながら対話をする、考えの根拠となる価値への理解が促され、自己を見つめることに役立ちます。

手立て設定の理由

道徳では考えを共有する場面で、生徒が当たり障りのないことを伝え合っ場をおさめることがあります。また、教師が授業展開の導入部に時間を使いすぎ、終末部での自己内対話をする場面がおざなりになる場合があります。そこで、みんなのワークシートである「えんたくん」に互いの意見を書きながら、考えを共有し合う授業を構想しました。

手立てのメリット

- ① 多様な考えにふれることができます。
- ② 考えの同異を比較しやすくなります。
- ③ 道徳的価値を多面的多角的に考えることができます。

手 立 て

ステップ1

教材の内容を、自分とのかかわりで考えたり伝えたりする。

ステップ2

友達の考えを聞き、考えの根拠を質問し合う「共創的対話」をする。

ステップ3

多様な価値に気付き、人間としての生き方について考えを深める。

どのような生徒の姿を目指すか？

まずは、自分の考えを表明できる生徒を目指します。次に、書いてある内容について「どこからそう思うの？」と質問し合い、考えの根拠を聞き合う生徒を目指します。それにより、書かれている内容が似ていたり同じだったりしても、価値の違いを生徒が理解できるようにします。最後に、対話を通して、教材文の道徳的価値に気が付き過去の自分と照らし合わせ自己を見つめる姿を目指します。

ステップ 1

教材の内容を、自分とのかかわりで考えたり伝えたりする。

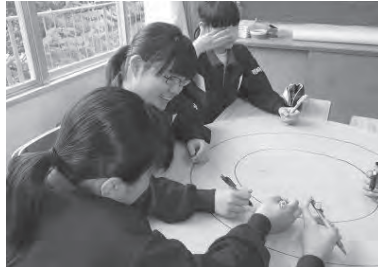


「自分の考えを表明する」

ワークシートだとなかなか書き出せない生徒も、「えんたくん[®]」に友達が書き始めると、書くヒントももらえます。考えを表明する生徒を目指します。

ステップ 2

友達の考えを聞き、考えの根拠を質問し合う「共創的対話」をする。

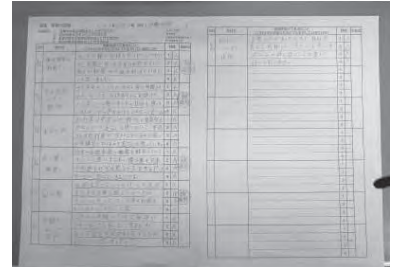


「共創的対話」

「どこからそう思うの？」書かれている内容が似ていたり同じだったりしても、価値の違いを生徒が理解できるようにします。

ステップ 3

多様な価値に気づき、人間としての生き方について考えを深める。



「自己を見つめる」

共創的対話を通して、教材文の道徳的価値に気づき、過去の自分の生き方・あり方と照らし合わせ、自己を見つめさせます。

合意形成



「えんたくん[®]」は主に合意形成場面で用いられるツールで、一般的には中心部にグループの総意を書き込みます。

多様な価値



今回は「逆走えんたくん」と名付けました。外縁部に書かれたものは、個人の多様な価値観を反映しています。

指定研究会情報

上越 柏崎刈羽地区（柏崎市刈羽郡中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：対話を通して多様な価値に気づき自己を見つめる

「えんたくん」を活用して、対話を促し、多様な価値に気付くことをねらいます。「あるレジ打ちの女性」では、働く喜びのある生き方を実現していこうとする意欲を高めます。

◇月 日：11月20日（水） ◇会場校：柏崎市立南中学校

◇公 開：1学級 3年 「勤労」あるレジ打ちの女性 授業者 磯野 昌子

◇指導者：上越教育大学 教授 赤坂 真二

柏崎市教育委員会 指導主事 若林 勝

道徳〈中越地区〉

自分事として物事を捉え、
根拠をもとに議論し、
生き方を考える!!



小千谷市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 小千谷市立千田中学校 渡辺 直人
会場校担当(右) 小千谷市立片貝中学校 本間 公嗣

自分の考えや思いを明確にさせる思考ツールや、自他の考えを交流させる場面を工夫することで、生徒自身が多面的・多角的に道徳的価値に迫り、生き方を考える授業づくりを目指します。

手立て設定の理由

よりよい自分のあるべき姿を考え、必要な資質・能力を身に付けていこうとする生徒になってほしいという願いがあります。そのためには、道徳的価値に迫る発問が大切になります。思考ツールやフレームワークを活用することで、生徒の納得解を引き出す意見交流ができます。このような場面を工夫することで生徒の多面的・多角的な思考を促し、自分自身と関わる中で道徳的価値の理解を深めていけると考えました。

手立てのメリット

- ① 自分の思いや考えをもたせることができます。
- ② 論点を整理することで、比較、検討が容易になり、議論が深まります。
- ③ 道徳的価値の理解や思考の深まりを促進することができます。

手 立 て

自分の考えを議論の土台とした意見交流で、多面的・多角的に道徳的価値に迫る。

ステップ1

思考ツールを活用し、生徒自身の思いや根拠を明確にする。

ステップ2

中心発問を受け、論点を整理、構造化するため、フレームワークを活用する。

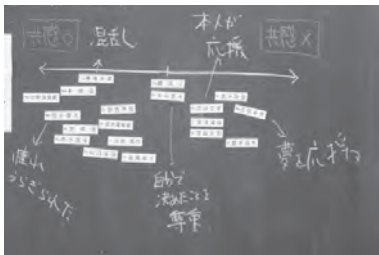
ステップ3

振り返りにより、思考の深まりを促す。

どのような生徒の姿を目指すか？

「〇〇が大切。でも…」など、本音で意見交流をする中で、自分なら何ができるか、何をどう大切にしていきたいかについて、考えを深めていく生徒を目指します。

ステップ 1



スケールや心情円などの思考ツールを活用することで、誰でも自分の考えや立場を明確にできます。これは、自分事として物事を捉え、道徳的価値に対する考えを引き出すことにつながっていきます。

スケールではクラス全体の傾向を可視化することができ、心情円では個々の心の葛藤を細かく表現することができます。

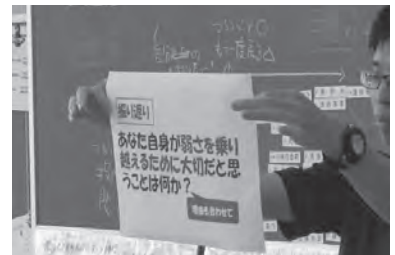
ステップ 2



中心発問からファシリテーションを通して、互いの相違に気付くなど多面的・多角的に考え議論することで道徳的価値を理解し、考えを深めることにつながっていきます。

その際、フレームワークが拡散した思考を構造化し、論点を整理するために有効となります。また、可視化することでメンバーと自身の思考の方向が一致し、議論が深まります。

ステップ 3



振り返りは、単に授業の感想を書くわけではありません。授業を通して考えたことを、自分事として生活場面に落とし込めるよう促します。

多面的・多角的に考え、自ら道徳的価値に迫ることができていれば、授業を通して変わったことや深まったことを振り返り、その理由や根拠から生き方につながる記述が表現されていきます。

指定研究会情報

中越地区（小千谷市中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：自分事として物事を捉え、根拠をもとに議論し、生き方を考える生徒の育成
～思考ツールを活用した多面的・多角的に考える授業づくり～

培ってきたファシリテーションスキルを発揮し、道徳的価値を実現することの大切さや難しさを自分のこととして捉え、考えを深める授業を公開します。

- ◇月 日：11月13日（水） ◇会場校：小千谷市立片貝中学校
- ◇公 開：1学級 3年 C-10「缶コーヒー」 授業者 高橋 郁弥
- ◇指導者：中越教育事務所 学校支援第2課長 西澤 貴志
小千谷市教育委員会 管理指導主事 関澤 明浩

道徳〈新潟地区〉

自分，仲間，教材との
“対話”を通して，自分
の生き方についての
考えを深める！！



新潟市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 新潟市立白根北中学校 嵐田 浩二
会場校担当(右) 新潟市立木戸中学校 本間 隆之

道徳的価値に対する自分の考えを，授業開始時と学び合い後の振り返りを対比し，道徳的価値の深まりの自覚を促し道徳的実践意欲の高まりを促す。

手立て設定の理由

多くの生徒は，本時で取り上げる道徳的価値についてはある程度分かっています。しかし，その自覚は実践に結びついていないとは限りません。そこで，“対話”を通して，自分，仲間，教材と向き合い，多面的多角的に事象を捉え，道徳的価値の深まりが期待できると考えます。

手立てのメリット

- ① 教材⇔自分との対話により，道徳的価値について考えが確認できる。
- ② 仲間との対話により，事象を多面的・多角的に捉えることができる。
- ③ 再度，自分との対話により，道徳的価値の深まりが実感できる。

手 立 て

“自分自身” “仲間と自分”
“教材と自分”との対話

ステップ1

「教材⇔自分」との対話。

ステップ2

仲間とのかかわりを通して，事象を多面的・多角的に考える。

ステップ3

再度，自分とのかかわりで事象を捉え，今後の自分について考える。

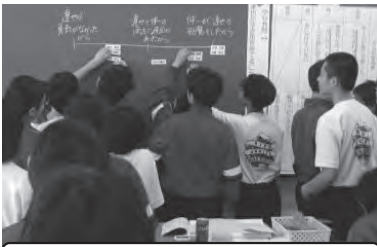
どのような生徒の姿を目指すか？

教材の中の事象を自分事として捉え，自分，仲間，教材との“可視化した対話”を通し，道徳的価値が深まり，道徳的価値に基づき，状況の応じた最も適切な行為を選択できる生徒の姿を目指していきたい。

ステップ 1



自分の考えを表出している様子



「最初の自分」を発表している場面

教材の中の登場人物との対話を通し、自分事としてとらえる場を設定するとともに、授業の導入場面において、道徳的価値についての自分の考えを表出します。

ステップ 2



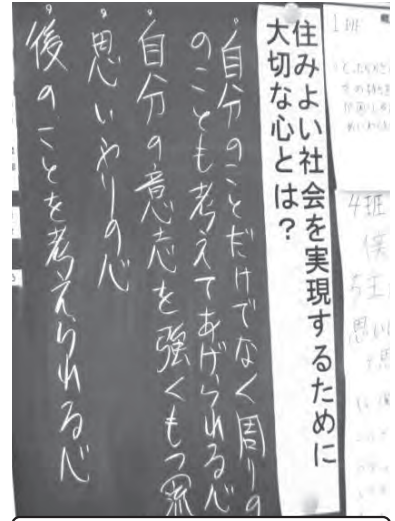
仲間と対話している場面

中心発問で、道徳的価値に基づく、自分のとるべき行動を考え話し合い活動を取り入れ、多面的・多角的に物事を捉えていくようにしていきます。

ステップ 3



授業終末場面での自分との対話



生徒の変容がわかる板書の工夫

授業終末場面では、再度、自分との“対話”を取り入れ、可視化された多様な考えから道徳的価値の深まりや道徳的実践意欲の高まりを自覚する場面を設定します。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）教育研究発表会

◇研究主題：豊かなかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成
～自分・仲間・資料との対話を通し、自分の生き方について考えを深める授業の工夫～

「教材⇔自分」「仲間と自分」「自分自身」との“対話”は公開する全学級で実践します。授業の終末場面では、導入時の自分の考えと対比し、道徳的価値の深まりを実感する振り返りを取り入れる予定です。

◇月 日：11月15日（金） ◇会場校：新潟市立木戸中学校

◇公 開：3学級 1年 「雨の日の昇降口」 授業者 永田 文子
2年 「カラカラカラ」 授業者 山下 豪史
3年 「闇の中の炎」 授業者 林 由美

◇指導者：北陸大学 経済経営学部マネジメント学科 教授 東風 安生

道徳〈下越地区〉

思考ツールを活用し、 自分事として問題を とらえる授業に！！



村上市・岩船郡中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 関川村立関川中学校

長谷川 堯哉

会場校担当(右) 村上市立村上東中学校

中山 えり子

自分の立場を思考ツールで明確化することで、発問を自分事として捉えて考えることができ、広い視野で意見交流をすることができます。

手立て設定の理由

生徒が自分の立場を明確にしていないと、論点がずれてしまったり、発問に対して自分事として向き合えず、教師のねらいを察して自分の本心とは異なる意見をつくったりしてしまうことがあります。思考ツールを使うことで、以下のメリットがあると考えます。

手立てのメリット

- ① 自分の立場が明確になり、発問に対して自分事として考えられます。
- ② 交流の際の手がかりになります。
- ③ 授業の振り返りで、自分の考えの変容を生徒自身が確認しやすくなります。

手 立 て

思考ツールで立場を明確にし、意見交流を促します

ステップ1

思考ツールにより自分の立場や判断理由を可視化する。

ステップ2

発問により多様な価値観を表出させる。

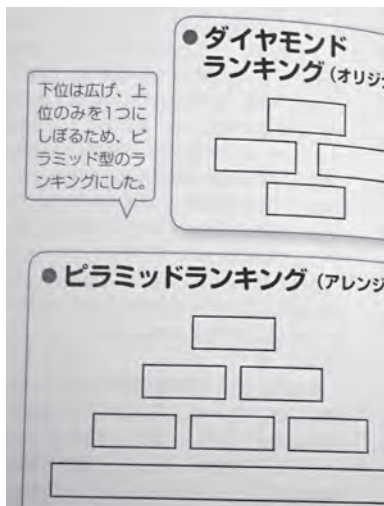
ステップ3

意見交流を通してよりよく生きるための方策を見出させる。

どのような生徒の姿を目指すか？

自分の立場を思考ツールで明確化することで、他者と本音で話し合い、多様な価値観の交流ができることを期待します。また、本音で話し合うことで、「自分はどうか判断して生きるか」という自分事として捉え、よりよく生きるための方策を考える姿を目指します。

ステップ 1

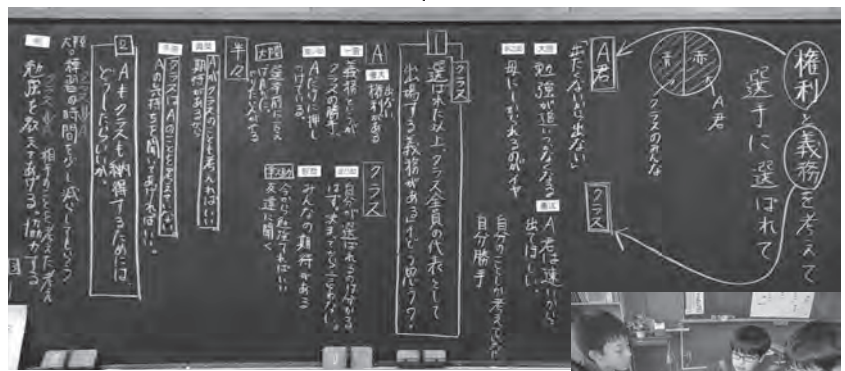


ダイヤモンドランキングやネームプレートの添付位置で自分の考えを表明します。話し合いではその根拠を明らかにしながら意見の交流を行います。

考えが変わった場合は、ランキングの順位や添付位置を変え、その根拠や理由を明らかにして意見を述べるようにします。

自分の立場を明らかにすることで、題材を自分のこととして捉えやすくなります。

ステップ 2



中心発問及び補助発問で多様な価値観を表出させ、共有する

中心発問に対する意見をできるだけ多く表出させていきます。また、板書を効果的に利用することで、登場人物や関係性を整理し、UDLの視点からも分かりやすい授業展開を工夫します。

また、補助発問や発展的な問いかけで揺さぶりをかけることで、生徒は更に多様な価値観に気付くことができます。

ステップ 3

意見交流で様々な方策を見い出す

個々の振り返りで考えを「深化」させる

意見交流の後には、個人で考えを深める時間を確保します。授業内で自分の意見や考えが深まったり、他者の意見にも共感できたりしたことを振り返ります。このことにより、自分の考え方の変容に気が付き、道徳的理解の広がりを実感できます。

指定研究会情報

下越地区（村上市・岩船郡中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：広い視野で物事を自分のこととしてとらえ、よりよい生き方を求める生徒の育成 ～思考ツールを活用した学び合いのある授業を通して～

自分のこととして問題を捉えることや活発な意見交流を行うには生徒自身が自分の立場を理解した上で考えることが大切です。思考ツールを導入で使い、生徒の実態を踏まえた上で授業を展開していく予定です。

◇月 日：11月12日（火） ◇会場校：村上市立村上東中学校

◇公 開：2学級 1年「班での出来事」 授業者 中山 えり子
3年「好きな仕事か安定か悩んでいる」 授業者 森清 友莉

◇指導者：下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 関川 紀博
下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 平山 裕也

特別活動

問題発見・解決の過程を通して、 「根拠をもとにした意思決定」 を目指す



県中教研 特別活動部 全県部長
長岡市立江陽中学校 佐藤 裕之

集団生活を向上させるためには、その集団内での合意形成が不可欠です。そのためには、問題発見・解決の過程を大切にしながら、根拠をもって意思決定をする授業の構築が重要です。多様な話し合い活動を基に、生徒が意欲的に学び合う授業を具現するためのポイントを2つ紹介します。

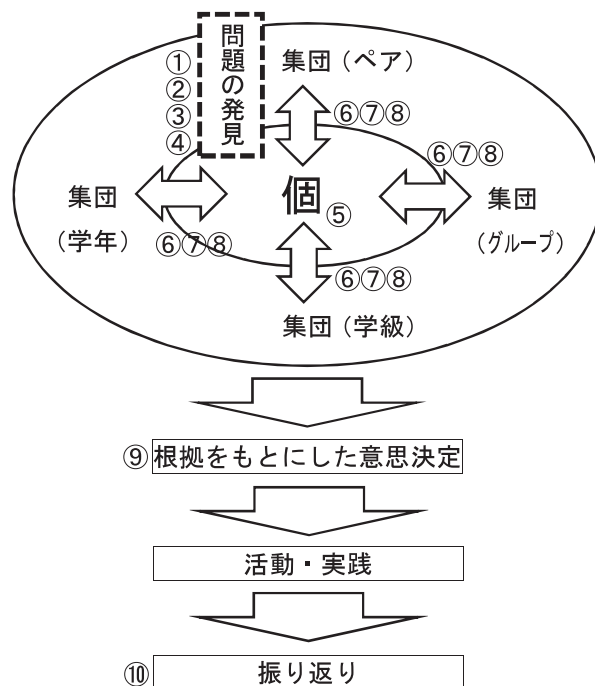
ポイント1 問題の発見と共有，集団による意思決定までの過程を大切にす

学級活動（集団）で意思決定したことに対する生徒の取り組み状況はどうか？共感的な人間関係が育ち、学級が居心地のよい場所になっているでしょうか？

集団生活の向上には、体験を通して得られる新しい自分の発見など向上心につながる自身の変化を実感させることが大切です。そのためにも、問題の発見・共有から始まり集団としての意志決定をするなどの自発的・自治的な活動に至る過程を大切にします。

以下の4つの段階（場面）を意識して指導・支援を行うことが重要です。

- 1 生徒が意欲的に取り組むための題材（単元）設定の工夫（①～④）
- 2 学び合いを広げ深めるための環境づくりや学び合いの場の設定（⑤～⑧）
- 3 集団・自己による根拠をもとにした意思決定（⑨）
- 4 活動・実践の振り返り（⑩）



※ 文・図中の①～⑩は、「学び合い10」（特別活動）に対応した。

ポイント2

話し合い活動を推進し、意見の違いを超え、望ましい人間関係を育む

学級活動では、活動内容そのものが人間関係を深めたり、活動・実践を通してよりよい人間関係を築いたりすることに繋がります。また、人間関係を深める話し合い活動を行うためには、互いに自分の考えを自由に表現できたり、認め合い高め合うことができたりする

など、学級内に支持的な風土が醸成されていることが前提となります。以下のような視点を大切にして話し合い活動に取り組むことで、一層人間関係を深めたりよりよい人間関係を築いたりすることができます。

○ 「なぜ話し合うのか」を全員が理解して話し合いに臨む

提案理由や活動テーマ設定の理由を全員が理解するために、以下のような視点を大切にします。

- ・学級や日常生活の現状や実態（課題・問題を取り上げる）
- ・話し合う必要性（提案者の思いや願いを生かす）
- ・問題の焦点化（解決への見通しを持つ）

この提案理由や活動テーマ設定の理由を、話し合いの判断基準や拠り所とします。このことにより、生徒が課題意識や切実感を持ち、話し合いが深まり、人間関係も深められていきます。

○ 互いの意見を生かし尊重することにより学級の合意形成を図り、集団決定を行ったり効果的な自己決定に繋がったりすることを実感できるようにする

「合意形成を図る」とは、互いの意見の違いを超えたり互いのよさを生かしたりしながら、最終的に“自分もよくてみんなもよい”というように集団として意見をまとめるということです。このようにして合意形成を図り、集団決定を行います。また、「効果的な自己決定」とは、自分で決めた実践事項に向けて活動意欲が高まり、日常生活において自己の生活の改善向上に繋がるということです。以下のようなことを意識し、指導・支援します。

- ・意見には、内容により様々な種類があることを理解し、関連する発言を注視するようにする。
- ・集団決定や自己決定の重みを理解できるようにする。
- ・似たような意見をまとめたり、互いの意見の良いところを生かしたり、提案理由や活動テーマ設定の理由に根拠を持ったりできるようにする。

<引用・参考文献> 国立教育政策研究所(H26)「学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】」教師用パンフレット
国立教育政策研究所(H28)「学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】」教師用指導資料

特別活動 重点方針

望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。

- 学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。
- 自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。

学び合い10（特別活動）

①	必要感・達成感のある題材（単元）	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心をもち意欲的に解決しようとする題材（単元）を設定している。
②	題材（単元）の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材（単元）の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒がよりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見つける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら考えを広げたり深めたりする場を設定している。
⑨	根拠をもとにした意思決定	問題解決の過程を通して、根拠をもとにした集団としての意思決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

特別活動 〈上越地区〉

普段の会話量UPと話合いのルール (全員・均等・肯定) 定着で 問題解決力UP !!



妙高市中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 妙高市立新井中学校

桑原 大和

会場校担当(右) 妙高市立妙高高原中学校

寺島 佳子

普段の会話量を増やすことで、生徒同士の相互理解が深まります。その基盤の上に話合いのルールを定着させると、より充実した話合いが行われ、問題解決力がアップします。

手立て設定の理由

普段の話合い活動では、意見を言う生徒が固定化されています。自己肯定感が低く、自分の意見に自信をもてない生徒が多くいるからです。

生徒同士の会話量を増やすことで相互理解が深まり、話合いのルールに則り活動すると次の3つの利点があります。

手立てのメリット

- ① 誰もが意見を言いやすい雰囲気作りで、学級の居心地がよくなります。
- ② 身近な問題点に気づき、話し合うようになります。
- ③ 自己肯定感が増し、自ら考え行動するようになります。

手 立 て

生徒の相互理解を深め、生活改善の話合いの機会を定期的に設定する。

ステップ1 (語り合える関係作り)

生徒の相互理解が深まり、話合いのルールが定着する。

ステップ2 (問題発見力育成)

自らの集団の問題点を見つけ(Find)、改善しようとする。

ステップ3 (合意形成と実行)

多くの意見を比較し、合意形成を図りPDCAサイクルで問題を解決する。

どのような生徒の姿を目指すか？

自らが所属する集団が抱えている問題に気づき、その解決策を考えられる生徒。その過程で、他の意見をしっかりと聞き、自分の意見と比べ、どのような結論が良いかを話し合い、それを実行できる生徒。実行したらその成果を検討し、更に効果的な改善策を考え実行していく生徒を育てたい。

ステップ 1

相互理解のための話し合い

「今日の給食で美味しかったのは？」

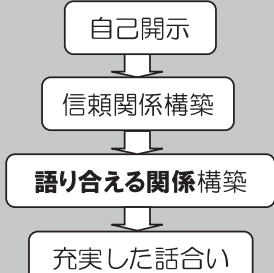
「昨日の夜10時に何してた？」

「今日、面白かったことは？」

など

話し合いのルール提示

- ・全員が意見を言う。
- ・順番を決めて**均等**に意見を言う。
- ・他の意見をちゃんと聞く。(肯定)

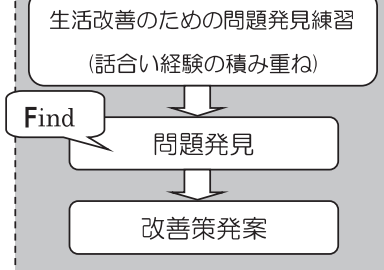


短学活等を使い生徒同士の自己開示の機会を増やし、**語り合える関係作り**をすると話し合いでたくさんの意見が出るようになります。

各学期に2度の全校一斉の話し合いを行い、ルールに則った話し合いを行います。

ステップ 2

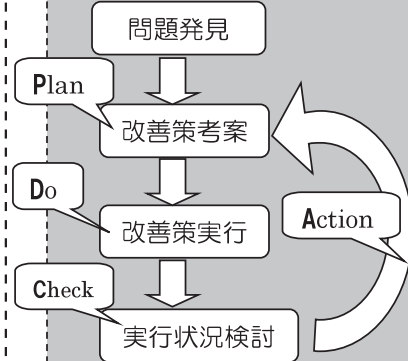
生徒自らが所属する集団の**問題点**に気づき、改善しようとする。



学級目標の振り返り(各学期2回)を軸として、自らの生活向上のために話し合う機会を定期的に設けます。そうすることで普段の生活での不都合や改善点に生徒自らが付くなど、**問題を発見する力**が付いてきます。

ステップ 3

PDCA サイクルで集団をより良くする。



様々な意見を考慮し、合意形成を図り、改善策を決定します。改善策をしばらく実行していったら、改善策の実施状況を振り返って軌道修正をします。

PDCAサイクルを使い、生徒が自らの問題点を解決していくようになります。

指定研究会情報

上越地区(妙高市中教研)特別活動教育研究発表会

◇研究主題：自ら考え、行動する集団の育成～語り合いを通しての問題解決力の育成～

充実した話し合いをするためには、学級の雰囲気作りが不可欠です。自己開示の機会を増やし、生徒同士の信頼関係(語り合える仲間関係)作りをします。その関係を基盤として問題解決に向けて、ルールに則った話し合い(充実した話し合い)をすることで、自ら考え行動する集団になります。

◇月 日：11月26日(火) ◇会場校：妙高市立妙高高原中学校

◇公開：3学級 1年「学級目標振り返り」 授業者 小島 寛則
2年「来年度への改善点」 授業者 寺島 佳子
3年「進路実現を考える」 授業者 金子 陽馬

◇指導者：上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二

特別活動 〈中越地区〉

「学級をチーム化するステップ」で段階的に“子どもをつなぐ” !!



中越地区中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 長岡市立秋葉中学校 若林 圭太
会場校担当(右) 長岡市立堤岡中学校 近江 裕美

「学級をチーム化するステップ」を軸に、「FT・思考ツール」と「班長会」を段階的に設定し、“子どもをつなぐ”特活年間計画『集団づくりの手引き』を作成。これを活用して集団づくりを行います。

手立て設定の理由

“学び合う授業”を創る授業力の育成のためには、望ましい関係性のある集団が基盤となります。

「集団づくり」における指導力の向上を図るためにはビジョンとメソッドが重要であると考え、『集団づくりの手引き』を作成しました。これを活用し、指導力の向上を図ります。

手立てのメリット

- ① 「集団づくり」指導を1年間を通してビジョンをもって取り組むことができる。
- ② 若手教諭にとっては、指導の拠り所となり一定水準の指導力の保証となる。
- ③ 『集団づくりの手引き』を各校に配布することで、郡市内中学校で活用できる。

手 立 て

「FT・思考ツール」と「班長会」を活用して段階的に“子どもをつなぐ”

ステップ1

教師は生徒一人一人と関係をつくり、教師と生徒がつながる。

ステップ2

教師のもとで、生徒同士をつなげる。(ペア、グループ)

ステップ3

生徒に委任していく。
(学級全体の活動へ)

どのような生徒の姿を目指すか？

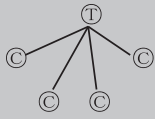
1年間を通してビジョンをもって「集団づくり」指導に取り組むことを通して、「受容・認め合いをベースに協力・実践し“+a”が生み出せる自治的集団」を目指します。これが、中越地区特別活動部が考える望ましい関係性のある集団です。

ステップ 1

学級をチーム化するステップ

T：指導性高

C：自由度低



教師は生徒一人一人と関係をつくり、教室に安心感をもたせます。

リーダー・FTor 育成 (班長会)

●班長会の議題を班長達から出させる。

(司会：Tの指示減少→生徒に委任していく)

◆FTorは「引っばる」のではなく、「活性化させる」という意識

FT・思考ツール

☆自己表現

☆質問する ☆聴く

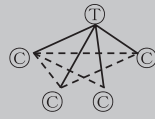
●ペアインタビュー

ステップ 2

学級をチーム化するステップ

T：指導性高

C：自由度高



教師の介入レベルを減らし、生徒に委任していきます。

リーダー・FTor 育成 (班長会)

●班長会の議題・学級の課題を誰もが出せるにしていく。

(司会：生徒)

◆FTorに「対等性」を意識させる

FT・思考ツール

☆可視化 ☆アイデア創造

●FTグラフィック

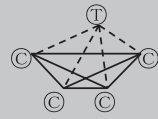
●プレイスマット ●KPT

ステップ 3

学級をチーム化するステップ

T：指導性低

C：自由度高



教師の介入レベルが低くても、生徒が自主的に活動できる状況を目指します。

リーダー・FTor 育成 (班長会)

●自主的に学級全体での話し合いができた、班の垣根を越えて意見を出して班長会を運営したりする。

FT・思考ツール

☆合意形成 ☆力を合わせる

●ワールドカフェ

●ジグソー学習

上記の記号の意味 ☆：ねらい ●：手立て ◆：教師の心構え FTor：ファシリテーター

学級をチーム化するステップ (引用・参考文献：赤坂真二 (2013).『スペシャリスト直伝! 学級を最高のチームにする極意』, 明治図書.) を意識しながら, 1年間継続して, リーダー・FTor 育成 (班長会) と FT・思考ツール, の活用に取り組みます。

リーダー・FTor 育成 (班長会) 班長会の時間を毎週設定し, 各学級一斉に行います。学級の良いところや課題を話し合い, よりよい学級を目指し, 生徒が自主的に活動できる意識を高めます。班長会で出た意見は, 学級全体で共有し, 学級全員による課題達成の経験を積ませます。

FT・思考ツール 月一回の全校一斉学活を行っています。共通した「FT・思考ツール」を活用し, よりよい意見に練り上げます。ペアインタビューは1年間継続し, 生徒の関係性の構築を図ります。生徒会でも「FT・思考ツール」を活用し, ペアインタビューや縦割りの話し合いを行います。



指定研究会情報

中越地区 (長岡市中教研) 特別活動教育研究発表会

◇研究主題：望ましい関係性のある集団づくり

授業では, 1年間を通して実践する「FT・思考ツール」を用いることで, 仲間と意見を交わし合い, 学校をよりよくするための取組を考えます。

◇月 日：10月29日 (火)

◇会場校：長岡市立堤岡中学校

◇公 開：3学級 1年

「いじめ見逃しゼロスクールの話し合いに向けて先輩としてふさわしい行動を考えよう」 授業者 金内 香

2年 「来年の堤岡中学校をよりよくするために, 私たちにできることを考えよう」 授業者 青木 菜積

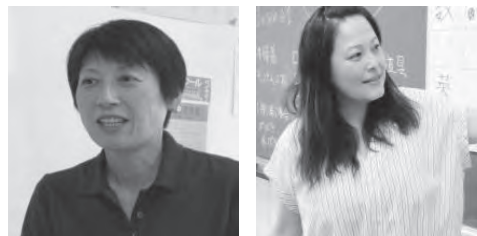
3年 「私たちの卒業プロジェクト～卒業に向けて堤岡中学校をよりよくするために3年生としてできることを考えよう～」

授業者 近江 裕美

◇指導者：南魚沼市立総合支援学校 校長 北島 豊

特別活動 〈新潟地区〉

異学年交流，学校の未来を考える 話し合い活動で自主性を 身につける !!



新潟市中教研 学級経営部

研究推進責任者(左) 新潟市立石山中学校

佐藤 裕子

会場校担当(右) 新潟市立小須戸中学校

小野 範子

全校縦割り班による学校課題を解決するための話し合い活動を行います。生徒自ら課題を見つけ、授業を進めることで、生徒の自主性・自治力の育成を目指します。

手立て設定の理由

小規模校がゆえに、自主的に判断し行動する姿勢が弱いという課題があります。次の手立てを講じることで、学校の発展のための建設的な方策を生徒自身が見つけ、より自主的に活動に臨む態度を育成することにつながります。

手立てのメリット

- ① 全校縦割り班で話し合う時の話しやすい雰囲気を高めます。
- ② 意見の共有や思考の深まりを進めます。
- ③ 協同性や問題解決しようとする意欲を高めます。

手 立 て

身近な課題を話し合いで解決することで、自主性を育みます。

ステップ1

異学年交流を計画的に進め、系統的に配置します。

ステップ2

話し合いを深める3つのツールを活用します。

ステップ3

生徒自ら授業を進めることにより、「自分たちが解決すべき課題」と意識付けを図ります。

どのような生徒の姿を目指すか？

授業を通じて、どのような場面でも自分の意見が自信をもって発表でき、自らの問題に対し、意欲的に解決に取り組もうとする姿を目指します。また本研究を通して、生徒の自主性の伸長を目指します。

ステップ 1

新入生交流会



全校縦割り班での活動①(4月)



全校縦割り班での活動②(7月)防災HUG

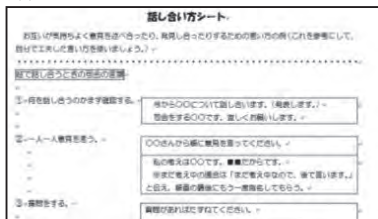


異学年交流

最上級生にはリーダーとしての自覚を、下級生にはフォロワーとして協力する態度を育てます。また、下級生が上級生への憧れを抱き、今後の活動を引き継いでいく意欲を喚起します。

ステップ 2

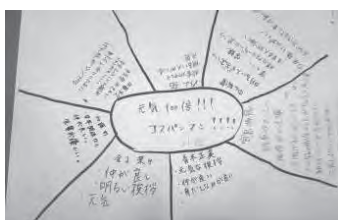
話し合いマニュアル



KPT



プレイスマット



話し合いの3つのツール

「話し合いマニュアル」, 「KPT」, 「プレイスマット」を場面に応じて活用します。話し合いが円滑に進み、意見の共有が図りやすい、より班の考えが深まりやすいをポイントに選択しました。

ステップ 3

学級での話し合い(1時間目)



全校での話し合い(2時間目)



全校での話し合い(2時間目)



生徒自ら授業を進める

授業前に学級委員、生徒会本部とは十分に話し合い、授業の方法を検討しています。1時間目は学級で、2時間目は全校縦割り班で話し合いを行います。

指定研究会情報

新潟地区(新潟市中教研)特別活動教育研究発表会

◇研究主題: 他者と積極的にかかわり合い共に高め合う生徒の育成
～異学年交流による自主性や自治の力の向上に向けて～

「今までの10年, これからの10年」をテーマに, 生徒会本部生徒の進行で進めていく授業です。学校を生徒自身の手でよりよくしていくために, 問題点を課題解決の方策について, 全校生徒で話し合い活動を行います。昨年度は1時間目の学級での話し合い活動を参観していただきました。今年度は2時間目の全校での話し合い活動を参観していただきます。

- ◇月 日: 11月28日(木) ◇会場校: 新潟市立小須戸中学校
- ◇公 開: 全学級一斉公開(全校縦割り班による話し合い活動)
- ◇指導者: 新潟市立東石山中学校 元校長 高口 和治

特別活動 〈下越地区〉

「クラスミーティング」 の共通の形式で 自治的能力アップ！



新発田市中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 新発田市立本丸中学校

長谷川 直紀

会場校担当(右) 新発田市立東中学校

片桐 洋子

全校で、共通の「クラスミーティング」と2次元指標を使うことにより、全ての生徒が、自分たちの力で、日常の課題解決を目指すことができます。

手立て設定の理由

通常の教科指導では教師から生徒へ教授する形式が主ですが、特活には生徒自身の力で積極的に活動をつくることができます。

与えられた課題ではなく、右の手立てを用いて、生徒自ら日々の生活をよりよくするために、主体的に考え合意形成を図り実践する学級活動を創り上げます。

手立てのメリット

- ① 生徒の視点に立った課題設定と活動の見通しをもたせることができます。
- ② 視覚的に自分たちの考えを整理し比較検討することができます。
- ③ 自身で決めたことを評価することでより自分事の活動につながります。

手 立 て

「クラスミーティング」の形式で学級活動を運営する

ステップ1

生徒自らが考える日常の課題をリーダーと吟味し議題設定

ステップ2

比較ツールとしての2次元指標を活用した話し合いの活性化

ステップ3

PDCAサイクルを意識した活動を設定

どのような生徒の姿を目指すか？

生徒は、「クラスミーティング」という話し合い活動の形式を使用し、自ら課題を見だし、話し合い、合意形成を図って実践する手続きを繰り返し経験します。本研究では自治的能力として、生徒自身がよりよく生きることを目指し、主体的かつ継続的に考え実践する姿を目指します。

ステップ 1

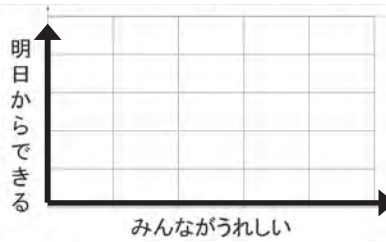


●議題
クラスの仲間に
1年間の感謝の気持ちを
伝える方法を考えよう。

時間	クラスミーティングの手順
5分	1 始めの言葉
	2 議題の発表・確認
	3 提案理由の説明
20分	4 班での話し合い
	5 班ごとの発表
	6 班の人と相談タイム
20分	7 全体での話し合い
	8 1つにまとめる
	9 決定事項の確認
5分	10 終わりの言葉
	11 先生の話
	12 自己評価・感想記入

生徒が感じている課題を基に、司会進行役の学級委員と事前の打合せを行います。ここでは、議題の選定や「クラスミーティング」で話し合う内容、2次元指標の2つの軸について決めます。

ステップ 2



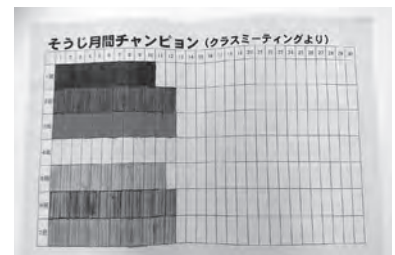
2次元指標の縦横の軸は、そのミーティングで大切にしたい2つのポイントにする。

生徒各自の意見を吸い上げるために、まずは付箋に考えと理由を書いて持ち寄ります。それを2次元指標に、位置を考えて貼ります。2次元指標に貼られた意見を元に、班の考えをまとめます。

ステップ 3



「クラスミーティング」で計画を立てる。



実際に行う活動は、チェックできるような具体策にする。

「クラスミーティング」で立てた計画(P)を、実際にやってみて(D)、振り返り(C)、改善点を話し合ってもう一度やってみる(A)というサイクルで、自主的に学級の問題解決を行えるようにします。

指定研究会情報

下越地区（新発田市中教研）特別活動研究発表会

◇研究主題：希望や目標をもち、よりよく生きる力を育む学級活動

「クラスミーティング」の目指す姿は、生徒による、生徒のための学級会です。自分たちの問題を自分たちで解決する経験を積むことで、自治的能力の向上が期待できます。
主体的で対話的な話し合いのための手立てとして2次元指標というツールを使います。

◇月 日：11月22日（金） ◇会場校：新発田市立東中学校

◇公 開：2学級 「よき手本となるために学級のレベルアップ策を考えよう～クラスミーティング～」
3年1組 授業者 波多野 陽子, 3年2組 授業者 小林 寿

◇指導者：新潟大学 教授 吉澤 克彦

3 指定研究 1 年目の進捗状況

生徒に確かな資質・能力を育成するため、
県中教研では今年度から「見方・考え方」に
着目することにしました。

目指す生徒像をメンバーで共有し、単元構
想シートを活用して検討を行い、秋のプレ授
業に向けて研究を進めています。

各チームの進捗状況を紹介します。



社会

「社会的な見方・考え方」 を働かせた「学び合い」を！

「学び合い」は「深い学び」を行うための一つの手立てです。「深い学び」となるためには「社会的な見方・考え方」を働かせて、課題を追究したり解決したりする学習活動を進めていくことが大切です。「社会的な見方・考え方」を働かせる「学び合い」の授業を目指して取り組んでいます。



全県部長
十日町市立南中学校
校長 若林 靖人

▶上越地区

社会科としての学び合いを追求



「社会科の学びとは何か？」から始まり、学び合いの意味や思考の深め方について議論し、2年間の方向性についてアイデアを出し合いました。

糸魚川市中教研
糸魚川市立青海中学校
佐藤 直己



第2回推進委員会で単元構想シートを検討しました。

▶中越地区

テーマは深い学びに向けて



推進委員会で「学び合う生徒の姿」を話し合い、研究の方向性を決めました。

現在、学び合いの有効な手立てと、社会的な見方・考え方をどう働かせるかを中心に研究を進めています。

十日町市中魚沼市中教研
十日町市立十日町中学校
藤 櫨 悠太



8月1日(木)に実施した第2回研究推進委員会の様子

▶新潟地区

協働的に学びを深める生徒



研究主題は「社会認識を高め、確かな学力を育てる授業は、どうあるべきか」です。今年はお互い合いながら協働的に学びを深める過程を重視して実践します。

新潟市中教研
新潟市立坂井輪中学校
加藤 真澄



10月31日
公開授業の様子
(新潟市立木崎中学校)

▶下越地区

見方・考え方を働かせ、思考・判断する授業を！



研究推進委員会では、社会科において育成すべき資質・能力の三つの柱から目指す生徒の学びの姿を検討・共有し、研究主題を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題解決を図る生徒の育成～聴き合い・思考を深める～」と設定しました。

五泉市東蒲原郡中教研
五泉市立五泉北中学校
夏井 徳治



第5回研究推進委員会の様子

理科

既存のW型モデルに「見通し」と「振り返り」を加えて、深い学びの実現に迫る！

生徒の気づきを促し、学習課題の解決に向けて学び合う姿を目指します。FTの場面をどこで設定し、教科の「見方・考え方」をどのように働かせるかが研究のポイントになります。



全県部長
村上市立朝日中学校
校長 木ノ瀬 隆幸

▶上越地区

全員が活躍する学び合いを！



学び合いの理想の姿と現状の姿とのギャップの原因を考え、様々な手立てを共有しました。授業研究でさらに有効な手立てを見いだしていきます。

上越市中教研
上越市立城北中学校
鬼木 哲人

独自のフレームワークで学び合いの手だてを考えました。



▶新潟地区

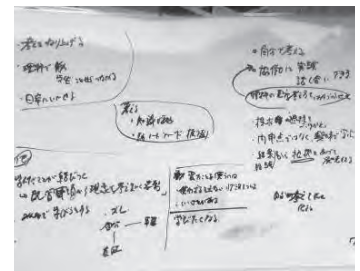
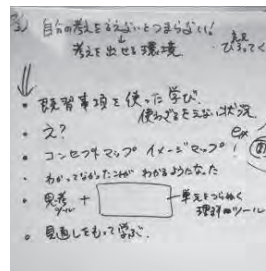
昨年度の成果を生かして！



目指す子どもの姿を共有し、その具現化に努めます。昨年度の小新中学校での研究成果を生かし、さらに向上した研究になるように議論を積み重ねます。

新潟市中教研
新潟市立藤見中学校
間 英法

目指す子どもの姿の意見交換、FTにて。



▶中越地区

目指す学び合いの姿を共有！！

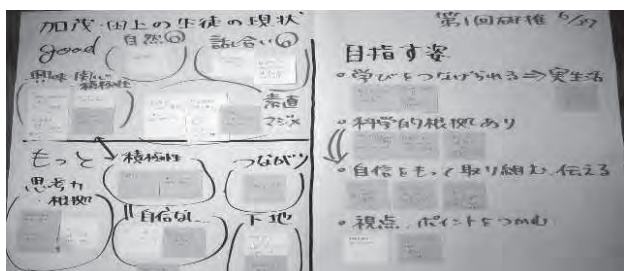


第1回推進委員会で、目指す学び合いの姿を共有するFTを行いました。

また、2年動物の単元で構想検討会を行い、授業のポイントを整理・確認しました。

加茂市南蒲原郡中教研
加茂市立若宮中学校
白井 明日華

6月27日に実施した第1回研究推進委員会でのFT



▶下越地区

目指す学び合う姿を共有！！



第1回研究推進委員会で目指す子供の「学び合う姿」について話し合い、共有しました。また、子供の学び合ったその先の姿について共通認識し、授業の方向性を確認しました。

村上市岩船郡中教研
村上市立村上第一中学校
高橋 一哉

第1回研究推進委員会（目指す子供の姿の共有）の様子



英語

即興力を身に付ける活動の、質を高め、量を増やします

その場で思考・判断・表現するコミュニケーション活動が授業に定着してきました。次のステップは、授業を積極的に公開し合う中で、切磋琢磨しながら生徒の即興活動の質を高め、量を増やします。



全県部長
妙高市立妙高原中学校
校長 重野 準司

▶上越地区

目指す姿を共有しました！



柏崎市刈羽郡中教研
刈羽村立刈羽中学校
内山 貴啓

英語の授業を通して目指したい生徒の姿や、英語科における学びあいの方法について意見交換しました。単元構想に焦点を当て、今後、4回の公開授業を予定しています。

「英語を通して目指したい生徒の姿」について意見交流。



▶新潟地区

授業リレーでバトンをつなぐ！



新潟市中教研
新潟市立宮浦中学校
小田 久美子

11月までに、9か校で研究授業を行います。

4技能・5領域をバランスよく統合した学び合う授業のあり方について、研究授業を通して検討していきます。

新潟市を東西ブロックに分け、計9か校で授業リレーをします。



▶中越地区

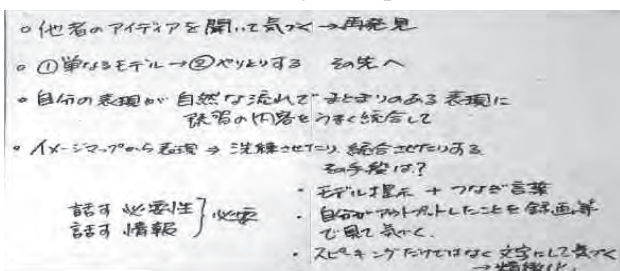
課題をもとに授業を考案中！



長岡市・三島郡中教研
長岡市立東北中学校
相田 一樹

目指す生徒の姿を共有し、その姿を実現するための手立てについて話し合っています。目的・場面・状況のある言語活動で、即興的に伝え合うための英語力を育みます。

第1回推進委員会で「主題」と「手立て」について検討したFG



▶下越地区

英語で伝え合う喜びを！



五泉市・東蒲原郡中教研
五泉市立川東中学校
田中 健太

前期は目指す姿と現状とのギャップをとらえ、手立てを検討しました。11月までに授業研究を重ね、英語で伝え合う生徒育成のための手立てを検証します。

研究推進委員会では、毎回発表に議論が交わされました。



保健体育

生徒一人一人の資質能力を育むために有効な手立てを実践し、検証します

学び合い・高め合い、笑顔溢れる授業の推進により、生徒一人一人の資質・能力をバランスよく育み、豊かなスポーツライフの実現を目指します。



全県部長
新潟市立石山中学校
校長 阿部 修

▶上越地区

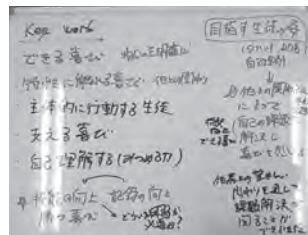
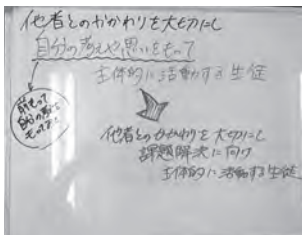
目指す生徒の姿を共有 !!



上越市中教研
柏崎市立第五中学校
柳 啓介

第1回推進委員会で、体育で目指す学び合う姿を共有するFTを行いました。

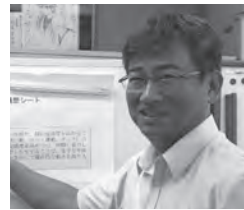
体育として、どのようなFTの形が有効かを探っていきます。



FTで「目指す生徒の姿」を検討

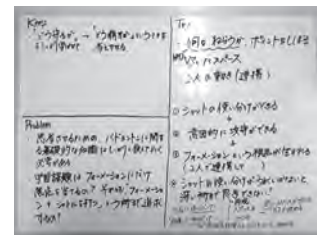
▶新潟地区

秋のプレ発表にむけて！



新潟市中教研
新潟市立新津第五中学校
中山 智司

1年目の秋のプレ発表では、ネット型バドミントンで提案に挑戦します。新しい体育授業の創造にむけて、有効な「手立て」を焦点化していきます。



8月22日に実施した指導案検討会のFG

▶中越地区

運動技能習得場面でFT活用！



見附市中教研
見附市立見附中学校
相場 雅典

運動技能の習得場面でFTを活用して、個々の課題を明確にもたせ、技能定着を促します。動きのコツやポイントをグループ内で共有し、学び合う姿を目指した授業を行います。

第1回研究推進委員会で学び合う生徒の育成を協議しました。



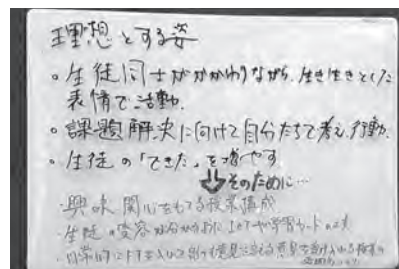
▶下越地区

目指す生徒の姿を共有、実践へ！



村上市岩船郡中教研
関川村立関川中学校
神田 純平

第1回研究推進委員会を開催し、FTを用いて、目指す生徒の姿を決定・共有しました。保健体育における深い学びとは何かを研究推進委員全員が考え、実践していきます。



まなボードで意見を出し合い、目指す生徒の姿を共有しました。

進路指導

自分の過去を振り返り、 他者の意見や考えを参考にしながら自分の未来を 考える

自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路選択できる生徒を育成するために、コミュニケーションスキルの向上、キャリアパスポートの活用など、四地区で模索中です。



全県部長
新潟市立木戸中学校
校長 佐藤 文俊

▶上越地区

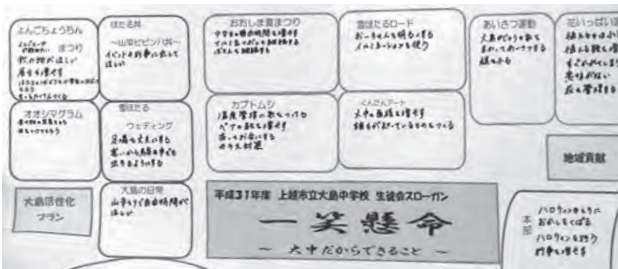
小規模校の学び合いを検討!!



上越市中教研
上越市立大島中学校
大重 志津香

小規模校で、どのように学び合いを仕組みでいくかを検討しました。
経験や学びが違う異学年での学び合いを研究していきます。

異学年でのFTの実践
～『地域のために中学生ができること』～



▶新潟地区

キャリアノートで成長を実感!



新潟市中教研
新潟市立坂井輪中学校
岩崎 正法

学校で行われる行事への取り組みをキャリアノートに記録し、自分にどのような力がついてきたのかをふり返っていく取組を進めます。



オープクエスチョンを通して「なぜ」を深めていきます。

▶中越地区

主体的な学びを検討!



長岡市三島郡中教研
長岡市立関原中学校
沼岡 恵里

キャリアパスポートを活用し、学びの振り返りから、過去と今の自分を比較します。SDGsの視点も取り入れながら、自分自身の生き方に迫っていく予定です。

11月の大島中授業公開に向けて、手立てを話し合う。



▶下越地区

研究主題と3つの手立てを決定!



新発田市中教研
新発田市立豊浦中学校
川村 美香

体験的で探求的な課題解決型の活動を取り入れ、自己の生き方について考える生徒の育成をめざします。研究主題と3つの有効な手立てについて検討しました。秋にプレ授業を予定しています。



第3回推進委員会にて有効な手立てと研究主題を検討

4 授業ナビゲーション



授業ナビゲーションは、教師個々の授業や各校の研修体制等の見直し・改善点を確認することを目的に県中教研で平成24年度から作成し、毎年見直しをおこなっています。

授業ナビゲーションは、ユニバーサルデザインの知見に基づいて学習環境を整える「授業スタンダード10」、教師の学び合いの指針としての「研修体制7・Web配信3」、14教科・領域の学び合う授業づくりで大切にする視点である「学び合い10」です。授業づくりと校内研修の指針・見直しとして御活用ください。

県中教研 授業ナビゲーション

授業スタンダード10

①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して座席やグループを決めている。

研修体制7

①	課題の抽出と目標の設定	現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	課題と研修目的の共有	課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	年1回以上の研究授業	年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	事前事後の検討会	研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	他教科や他校職員の参加	研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	参画型の検討会	検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	外部指導者	外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

Web配信3

⑧	全校体制での実施	実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	時間・座席等の環境整備	校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	結果の共有と改善	結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

学び合い10 (国語)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

学び合い10 (社会)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (数学)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒同士が関わり合う場	発表会で終わらず、生徒同士が関わり合う場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

学び合い10 (理科)

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連付けて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、単元全体の問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連付けた予想理由を検討させている。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にされた観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果をもとに結論を導き、生徒同士の意見交換を通して考えを深めさせている。

学び合い10 (英語)

①	学習集団づくり	生徒が安心して自己開示できる支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	帯活動の有効活用	指導計画に係わらず、生徒が即興で自身の考えを伝え合う表現活動等を継続して帯活動に位置づけ、生徒が英語で即興的に表現する力を育成している。
③	学習到達目標と指導計画の一体化	単元単位の学習到達目標 (CAN-DOリスト) を設定し、スモールステップかつバックワードで無理なく目標に迫る指導計画を立て、指導している。
④	学習意欲を高める課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような課題設定を工夫している。
⑤	学び合いの工夫	生徒に時間を預け、主体的に英語で表現する機会を確保する一方で、生徒の協働を通じてうまく表現できなかったことが表現できる手立てを講じている。
⑥	段階的で効果的な学習形態	発問に対して、まずは個人で考え、ペアで考えを伝え合い、最後にグループやクラスで考えを発表・共有する中で、生徒の気付きを促し、考えを深めている。
⑦	内容重視の活動	生徒に正確さよりも伝えたい内容を重視した表現活動に継続して取り組ませている。
⑧	教科書本文を材料とした活動	生徒に教科書本文の内容を材料とした表現活動に継続して取り組ませている。
⑨	技能統合型の活動	4技能 (5領域) のバランスを意識し、生徒に技能統合型の活動に継続して取り組ませている。
⑩	評価・振り返り	生徒が学習到達目標 (CAN-DOリスト) に照らして自身の状況を振り返る場面を計画的、継続的に設定している。

学び合い10 (音楽)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルールの周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態 (パート・ペア等) と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント (評価シート等で) に即して活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (美術)		
①	題材と目標と指導計画	生徒の発達段階や生活体験, 学習状況に基づいて, 指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり, 学習意欲を高めたりするような題材を設定する。
③	対話や創作活動から自己を見つめる	言語等を用いて, 色や形などを観点に交流したり, 振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現しようとする意図に応じた技法や表現方法を試したり, 材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	造形的な環境づくり	美術室をはじめ, 校内に日常的に作品を鑑賞できる環境を整えている。
⑥	鑑賞授業の充実	創造活動に関わることや世界と日本の文化等の鑑賞授業を行う。
⑦	美術館・大学等との連携した活動	美術館や大学, 関係諸機関等との関わりをもち, 人材・作品・資料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ, 生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け, 機能や美しさを追求したり, 生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	表現活動において, 用途や機能を基に交流したり, 検討したりを通して, 相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (保健体育)		
①	UD (ユニバーサルデザイン) の視点による授業づくり	生徒の実態, つまづきを把握して教材, 指導法の工夫や授業構成をしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し, 単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し, 主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しをもたせる工夫をしている。
⑥	発問・説明, 肯定的な関わり	思考や気付きを促す発問や説明がされたり, 賞賛・助言・励まし等, 肯定的に関わったりしている。
⑦	場の設定・グループ編成	課題の発見や課題解決を促す場づくりとペアやグループ編成がされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなど関わり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし, ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し, 授業の振り返りをさせ, 次時への課題をもたせている。

学び合い10 (技術・家庭)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項, 他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし, その実現に有効な“学び合い”の場を位置付けて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために, 身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて, 個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	関わり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために, 教え合い, 共同作業, 話し合い, 発表の場などを取り入れている。
⑥	関わり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし, 話し合い, 発表など, それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために, 実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり, 伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに, よりよい生活や社会の実現について, 自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり, 次の学習につなげたりするために, 観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (道徳)		
①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	生徒が自分自身の問題と捉え、向き合える「考え、議論する」ことを可能にする学習課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳」への転換のための指導方法の改善 (質の高い多様な指導方法)	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きていく上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を伴って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で考えを拡散、構造化させ、思考ツールで考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値に向き合い、よりよい方向を探る場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材 (単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心をもち意欲的に解決しようとする題材 (単元) を設定している。
②	題材 (単元) の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材 (単元) の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒がよりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見つける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら考えを広げたり深めたりする場を設定している。
⑨	根拠をもとにした意思決定	問題解決の過程を通して、根拠をもとにした集団としての意思決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (進路指導)		
①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会との関わりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

学び合い10（総合的な学習の時間）		
①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や実社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分との関わりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	体験的な活動の工夫	体験活動を探究的な学習の過程に位置付け、他者と協働して活動できるよう工夫している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的に捉えたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などで資料やICTを活用したり、校外でのフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や実社会との関わりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見いだした課題が今後の自分の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

学び合い10（学校保健）		
①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気付くことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わり合いを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちをもたせている。
⑥	実践化への意欲付け	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちをもたせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

県中教研 15部会の重点方針

	重点方針
国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。 ○考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。 ○話の内容や意図に応じた表現力を育てる。 ○目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。 ○学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。 ○資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。
数学	<p>数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。 ○生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。 ○生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。 ○他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。 ○地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。 ○音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。
美術	<p>生涯にわたり、美術を生活に取り入れれたり、楽しんだりする生徒の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に関わる「人・もの・こと・自然」を活用した授業を取り入れる。 ○対話のある授業によって、思考を働かせ、発想力が高まったり、お互いの考えを認め合ったりする生徒を育てる。
保健体育	<p>運動や健康・安全についての理解を深め、体力の向上と健康の保持増進のための実践力を身に付けるとともに、各種運動の合理的な実践をとおし、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態把握を的確に行う。 ○学習過程を工夫する。 ○学習資料提示の仕方を工夫する。 ○評価方法の工夫・改善を図り、指導に生かす。 ○運動を通して公正さや協力する態度を育てる。
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。 ○学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。

	重点方針
英語	<p>基礎・基本の確かな定着を図るとともに、コミュニケーション能力の基礎を培う学習指導を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域のバランスのとれた指導に努め、まとまりのある英語を理解したり、表現したりする活動を進める。 ○語彙や文構造については、コミュニケーションを支えるものとしての視点から言語活動を関連させながら定着を図る。 ○身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動の実践に努める。 ○小学校の外国語活動に関する小中の連携を深め、小学校における活動内容について情報交換するなど、中学校区ごとに研修を進める。
道徳	<p>道徳的諸価値についての理解と自覚を深める手立てを講じ、よりよい生き方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する道徳」に向けて求められる質の高い多様な指導方法を展開し、量的確保と質的転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。①登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習等のそれぞれの要素を組み合わせた指導も可とする。 ○フェシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化(構造化)し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を得る手立てを講じる。 ○自分や学びにじっくりと向き合い、自覚を深め、よりよい生き方を考えて道徳性を養う。
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。 ○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。 ○すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、携帯電話等に関わる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。 ○中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職業体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己理解を深める指導を充実させる。 ○生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。 ○勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。
総合	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。 ○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。 ○生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。

編集後記



新潟県中学校教育研究会

理事長 若月 弘久(新潟市立白根北中学校 校長)

新学習指導要領で期待される質の高い学びの実現

いよいよ新学習指導要領の実施が迫ってきました。

今回の学習指導要領改定では、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点から、基本となる理念「社会に開かれた教育課程」の実現に向かうとされています。

特に「何ができるようになるか」の中で、「生きて働く知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性」といった具体が示され、そこに、期待される授業像が包含されているものと考えられます。

また、授業を構想するに当たっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習課程の改善を図ることとされています。これまでの知識量を削減することなく、質の高い理解を図るための学習課程の質的改善を目指すのは、たやすいことではありません。

どの学校でも、これまではどちらかという生徒がインプットしていく、暗記再生型の授業が多く見られてきました。しかし、ここ数年は、県中教研の精力的な取組によって、教師は授業において生徒が自分の考えをしっかりとアウトプットするよう支援するという共通認識が生まれてきました。そうした認識の上に立ち、期待する授業がさらに広く行き届くようになれば、日々の授業において、常に問いをもち、自分の考えと級友の考えを吟味する中で、より深い考えにたどり着く生徒が増えていくに違いありません。

私たちがかかわる子どもたちが、未来のたくましい創り手となってくれることを誰もが願っています。そのため、全面実施を目前にした今こそ新学習指導要領の理念や方向性をもう一度受け止め直し、それに即した実践を積み上げていくよう働きかけることが県中教研の役割です。

こうした思いを受け、今年度も教科領域の研究推進委員の皆様からFTを用いた授業構想検討を通して「新学習指導要領の実施に向けた『学び合う授業』」モデルを示していただきました。県内各学校で、モデルを模倣、追試し（インプット）、自校化していく（アウトプット）ことが大切です。このことをわれわれの取組の誇りとすると共に、この「授業情報誌Class」の編集にあたり、編集に関わった事務局。貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長、指定研究校の皆さん、各研究推進委員の皆さんに感謝申し上げます。編集後記といたします。